北支

雪の微水

石太線

The Town of Weishui
in Winter Garb

支那正月

火　燈

燈節には極彩色の燈籠を飾る——北京

石疊花をつく

石疊花

例へば天壇や紫禁城の陛に雲龍の浮彫があるやうに、これは中華民族の神經から生れるものと思ふ。萬壽山や中南海、中央公園をぶらりと歩いてゐてうつかりすると見落すほど眼立たないものであるが、氣がついて子供らしい微笑を禁じ得ない。瓦か小石を埋めた地面のモザイツクだ。但しこれも宮廷建築の一部としてで、民間のそれは殆ど見受けないやうである

外門前

e Pavement Designs

厚和の喇嘛塔

The White Pagoda,
Houho, Mengchiang

塔

王泉山の琉璃塔

Porcelain Pagoda, Jade
Fountain Park

結婚式の前に花嫁の
肩にかついで運びこ

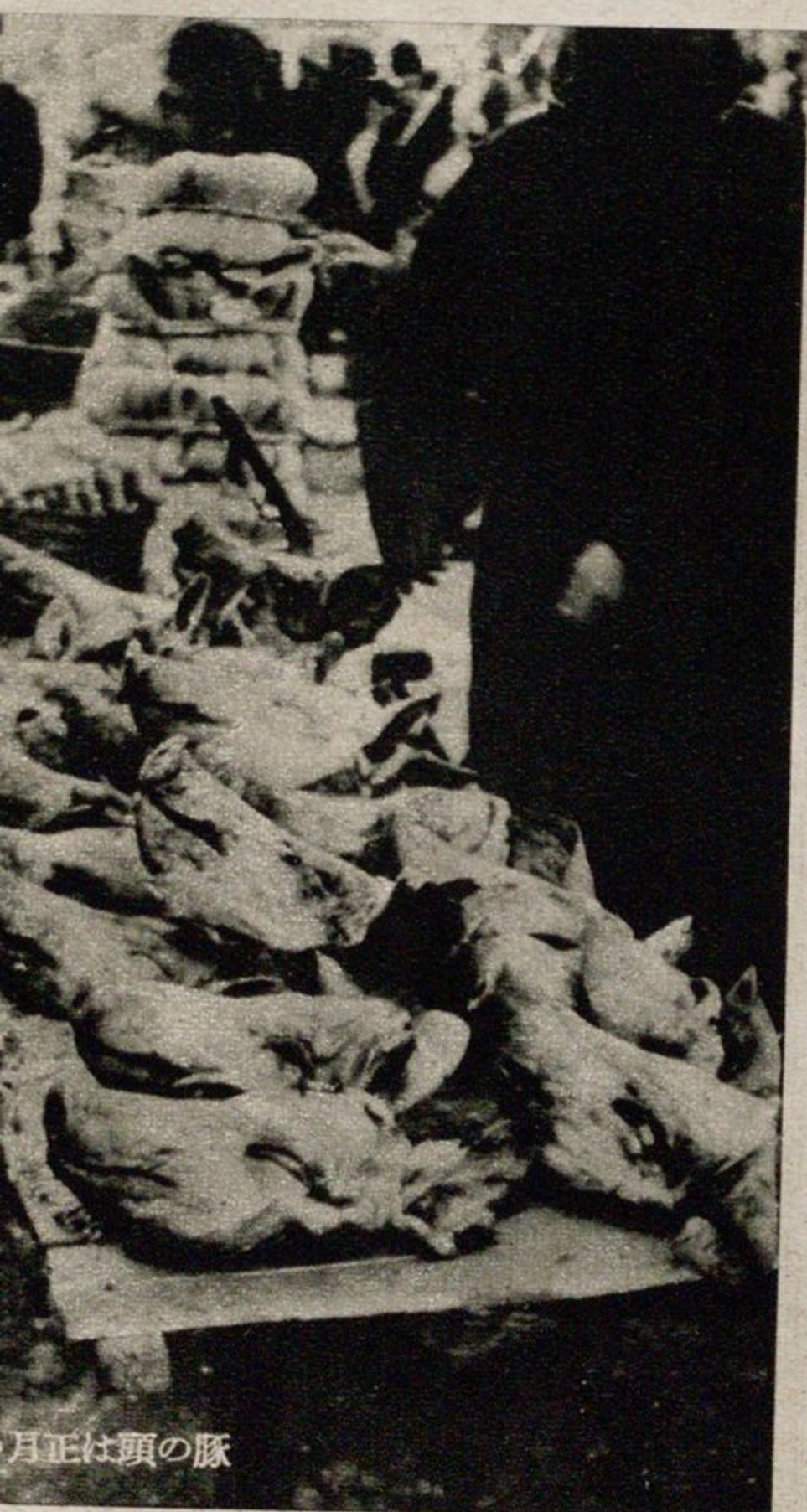
結婚式の日花婿の家の前に式に使ふ轎
(亮轎子)を並べて一般に披露する

Chinese Lanterns
at the New Year

花燈には金魚とか蟹とか色々と奇抜な形がある

支那正月
除夜

Glimpses of New Year
Eve in Peking

門扉に魔除けの神の
を貼つて來年を待

豚の頭は正月

來年の魔を除くた
めに胡麻殼を踏む

現地に在る同胞は益〻緊褌自肅して新東亞共榮圈の建設に邁進しつゝある。實際現地に於ける邦人と中國人の生活は共に今や安易とは云へないのだ。さもあらばあれ茲に善隣中國の舊正月を寫して現地報告の一端に資したいと思ふ

二十三日　竈の神様御昇天
二十四日は大掃除
二十五日はお豆腐作り
二十六日　豚料理
二十七日　鷄をしめ
二十八日　鴨しめて
二十九日は饅頭蒸し
三十日は旗たてて
明けたら　元日
お尻つん出しお辭儀ペコペコ

正月が近づくと子供等が歌ふ。臘八は臘月の八日で、この日一般家庭では寒さに中らず又厄病災難を避けると云ふので臘八粥（一種の雜炊）を食べる二十三日は竈祭である。竈神の御夫婦が此日昇天して家の者一年の善惡を天帝に奏上すると云ふので、竈を掃除して神棚の前に供物をする。供物に飴を缺かさぬのは竈神が奏上の時口が粘ついてあまり惡口を云はれぬやうとのまぢなひだ

この竈祭が濟むと愈〻正月準備が始まる。街頭には年畫（正月用の吉祥繪）や門神（魔除の神を描いた色刷紙で門扉に貼る）や燈籠賣、爆竹賣、その他食糧雜貨の露店が立並び、色鮮かな歲の市、年末風景が繰展げられる

財神に參詣する——
北京前門外關帝廟にて

支那正月
元旦

Some New Year's Day Snapshots

愈〻大晦日になると庭から門口にかけて胡麻稈をまき皆してビシビシと踏む、これは壓歳として來るべき年の厄除けの意であらう。さうして爆竹を鳴らす。中庭には卓子を据ゑ、百分（諸神の全圖を一々描いて束ねた刷紙）を飾り、茶菓、酒肴、香燭を供へる。春聯や門神は早く貼換へられ、居室に年畫を貼り、家族一同晴衣を着て夜明を待つのであるが、一般に麻雀、カルタなどして遊ぶ

さて夜半過ぎて元旦になると一家の守護神を新に迎へると云ふので香を焚き燭をともし、天地四方を拜し、財神、祖先を祀る。終つて家族は年少の者から順次家長に祝辭を述べ、それから一家團欒して餃子（肉饅頭）や年糕（一種の餅菓子）を食べ、椒柏酒を飲むのである。而して早朝第一に前門下の關帝廟や朝陽門外の東嶽廟、西便門外の白雲觀に詣る

二日は財神を祀るので廣安門外の財神廟が夜明前の參詣者で埋まる。八日は星祭で今でも古い格式の家庭では百八ツの燈明をあげて星の神を祀る

次に十三日から十七日迄は燈節又は元宵節と云つて各商店、寺廟等では思ひ思ひの花燈や畫燈を飾付けて愈〻正月最後の歡樂を盡す。この間ずつと續けて開帳中の重だつた寺廟があり、芝居は格別、又世界に聞えた琉璃廠の骨董市が立つので如何にも年改まつて春風駘蕩、老若男女遊ぶに困らぬ正月である

民國以前には商店の店員等は正月中店を締切つて銅鑼太鼓を

元日の朝は明けて——濟南にて

たたいて樂しんださうであるが、今は精々三日か五日だ。さ

麥芽人形――麥殼で色々な人形を作
――北京中央公園にて

商店では商品にもめでたい文
句を書いた赤紙を貼りつける

正月のおそなへ――果物やお
菓子、野菜などをそなへる

舊正月十三日から十七日迄火判（鍾馗さん）を焚いて邪を拂ふ——北京後門外宛平縣城

火判兒

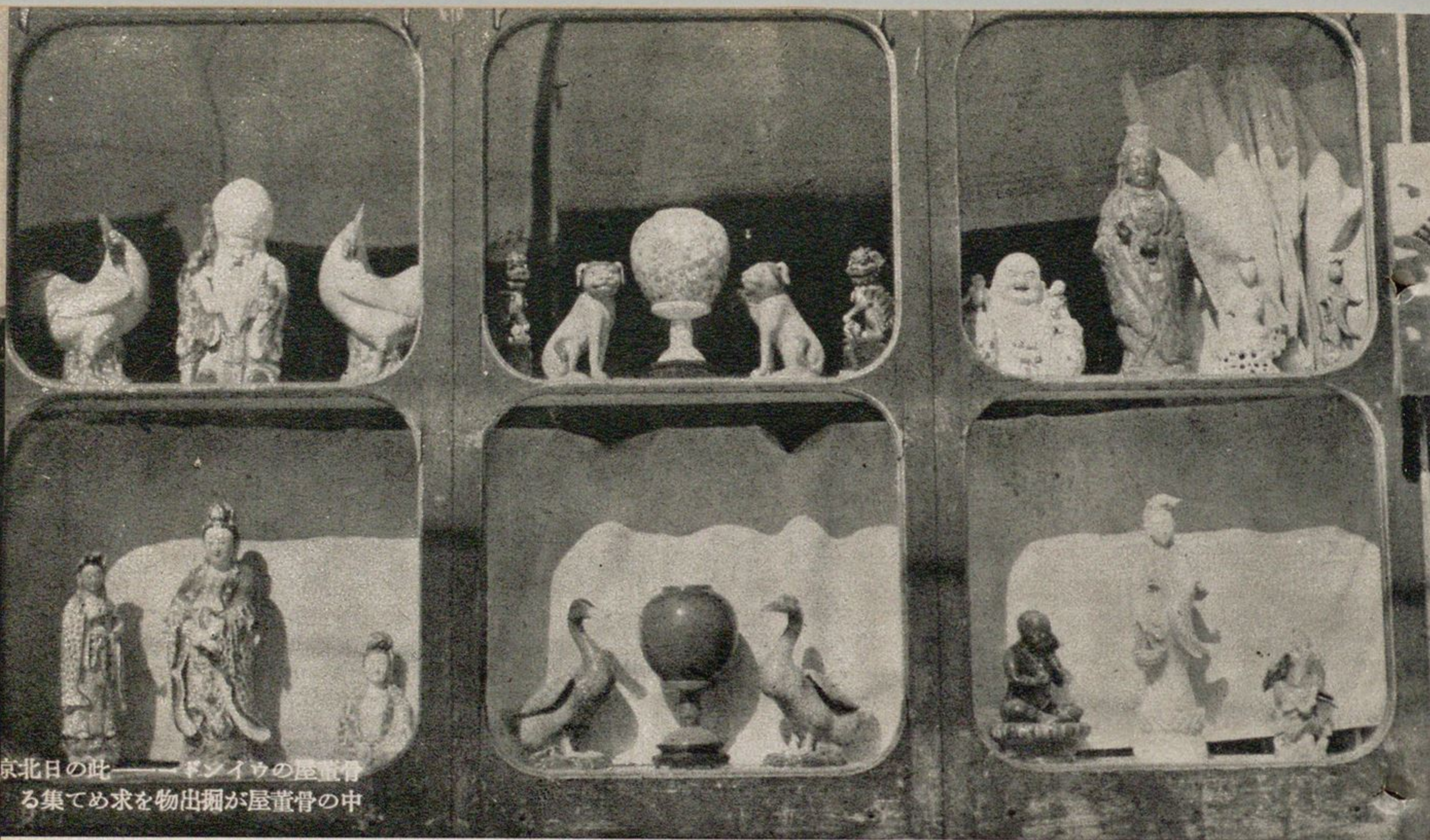
Festival of the God of Fire

初市
琉璃廠

街全體が骨董臭い北京の中で特に集約されたところが和平門外の琉璃廠である。その意味では北京の横顔を端的に示す一つに違ひない。而して世界に名を馳せた原因は、毎年正月元日から十五日迄開かれる例の初市が大いに宣傳されたものであらう。この市には殆ど全市の骨董商が蝟集して不可思議な緣日風景をかもし出す

First Market of the Year,
Liu-Li-Chan, Peking

琉璃廠、海王公園
初市の雜沓

骨董屋のウインドーーー此の日北京中の骨董屋が掘出物を求めて集る

火神廟内に開かれた骨董市

琉璃廠は遼時代の海王村の址で明の時ここに琉璃窰を設けて五色の琉璃瓦を燒いたものである。即ち當時五大廠（崇文門外の神木廠、交民巷の臺基廠、左安門内の黒窰廠朝陽門外の大木廠と共に）であつた。清末になつて窰工を廢し段々商店が殖え、民國以後は窰の址を撤去して街路にしてしまつた。立並ぶ商店は大部分骨董書畫、筆墨硯等を賣るので、平常は實にシンとした靜かな街である。現在中心にある海王村公園を舊址に因んで俗に廠甸と云つてゐるが初市の時は此處と街の東方路北の火神廟を中心に雜閙を極め、和平門外新華街の兩側にかけてアンペラ小屋が立つ盛大さだ。事變以後激增する邦人が次第に外人を壓倒する勢は此處にも明瞭に見える

色々な食物屋の屋臺が並ぶ

初市のおもちゃ屋

スケート

北京、北海にて

Skating at the North
Lake, Peking

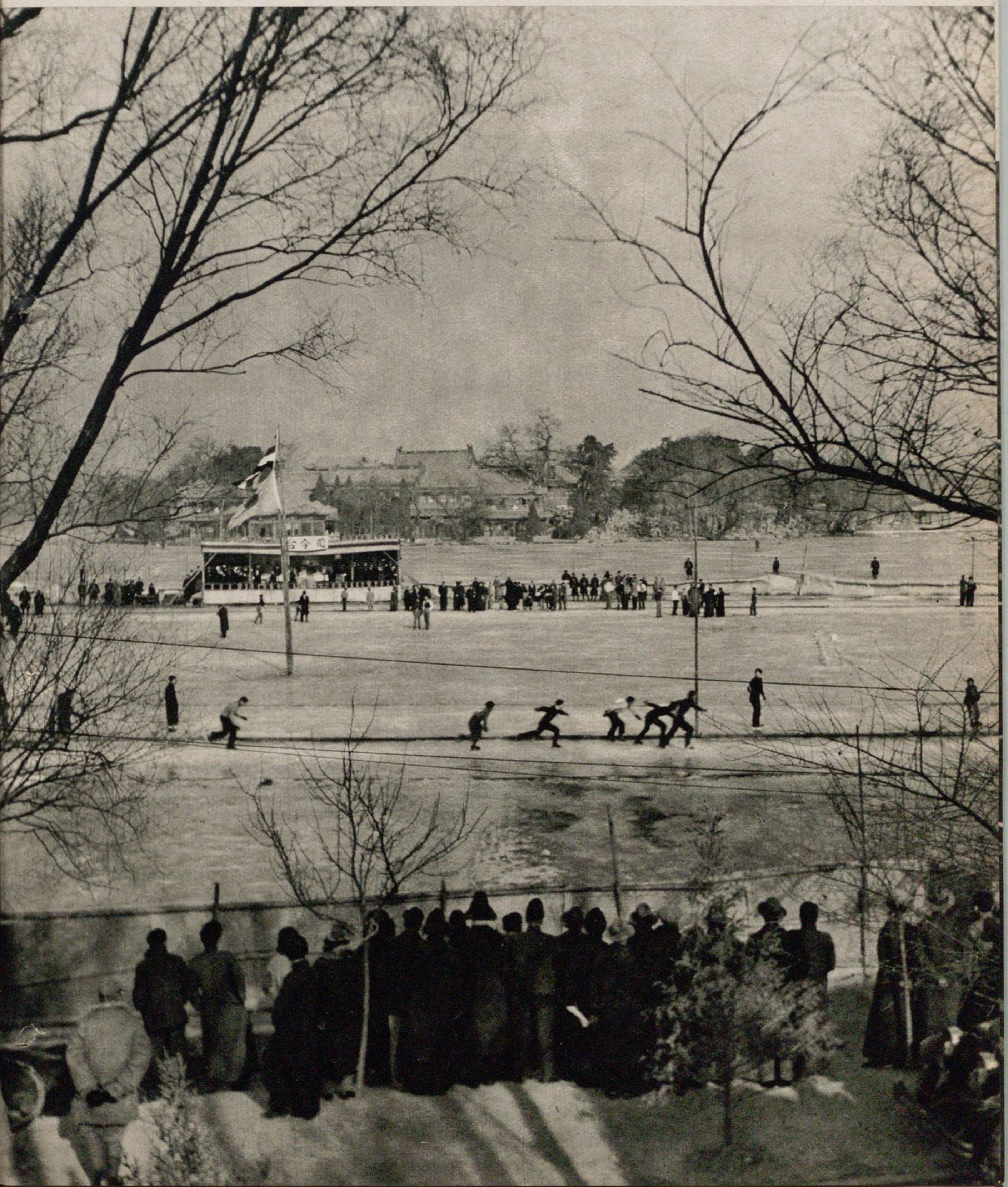
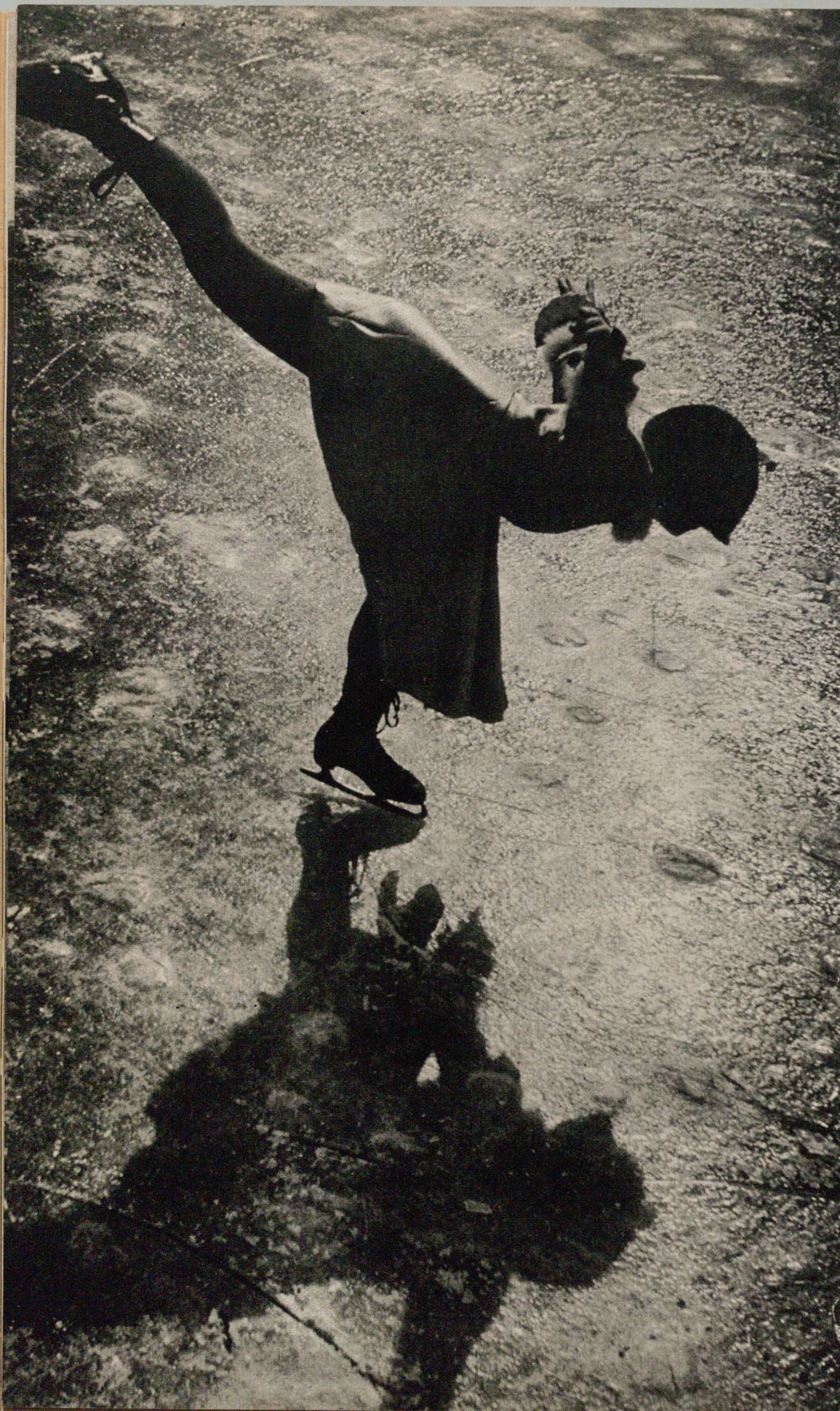
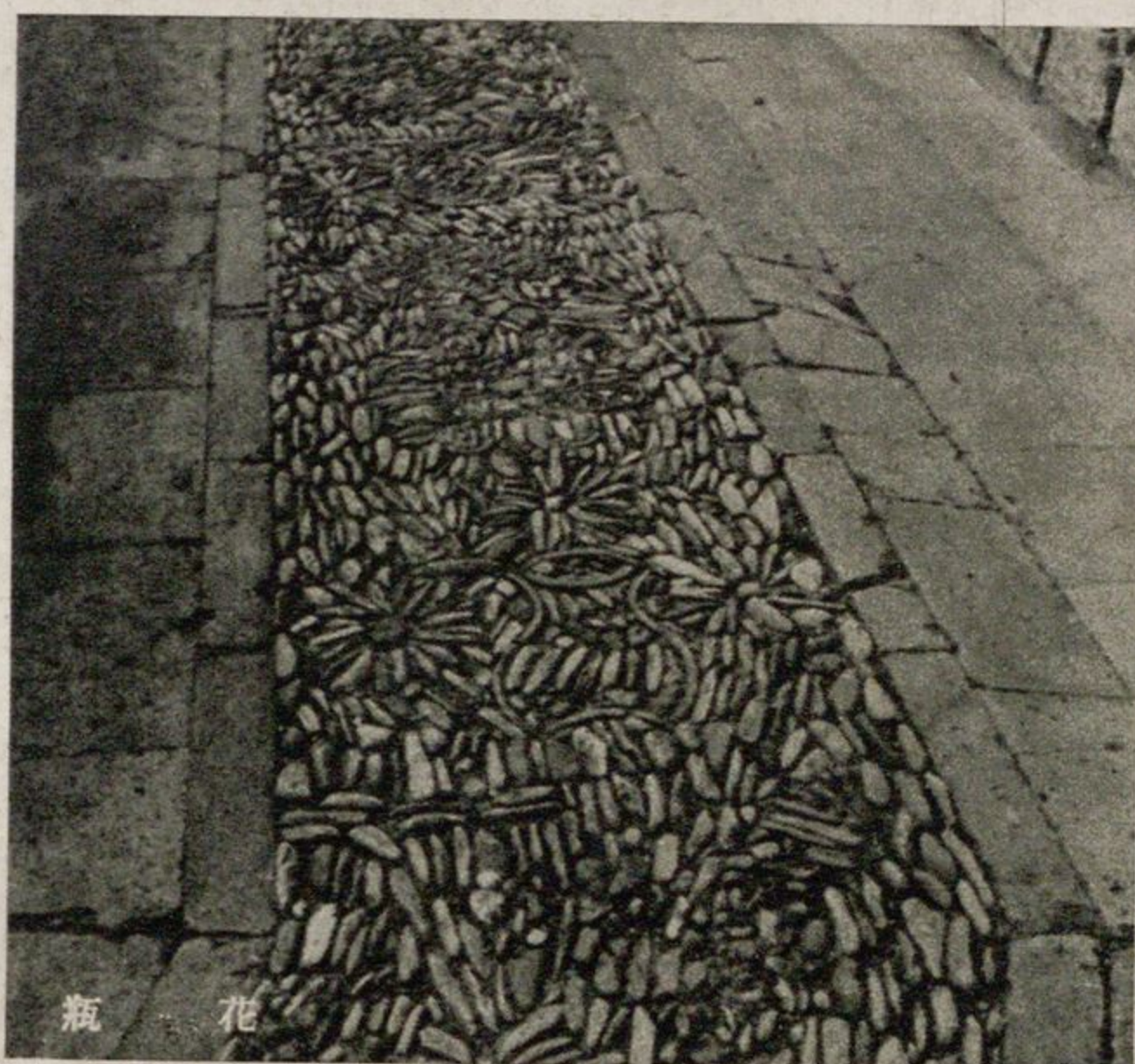
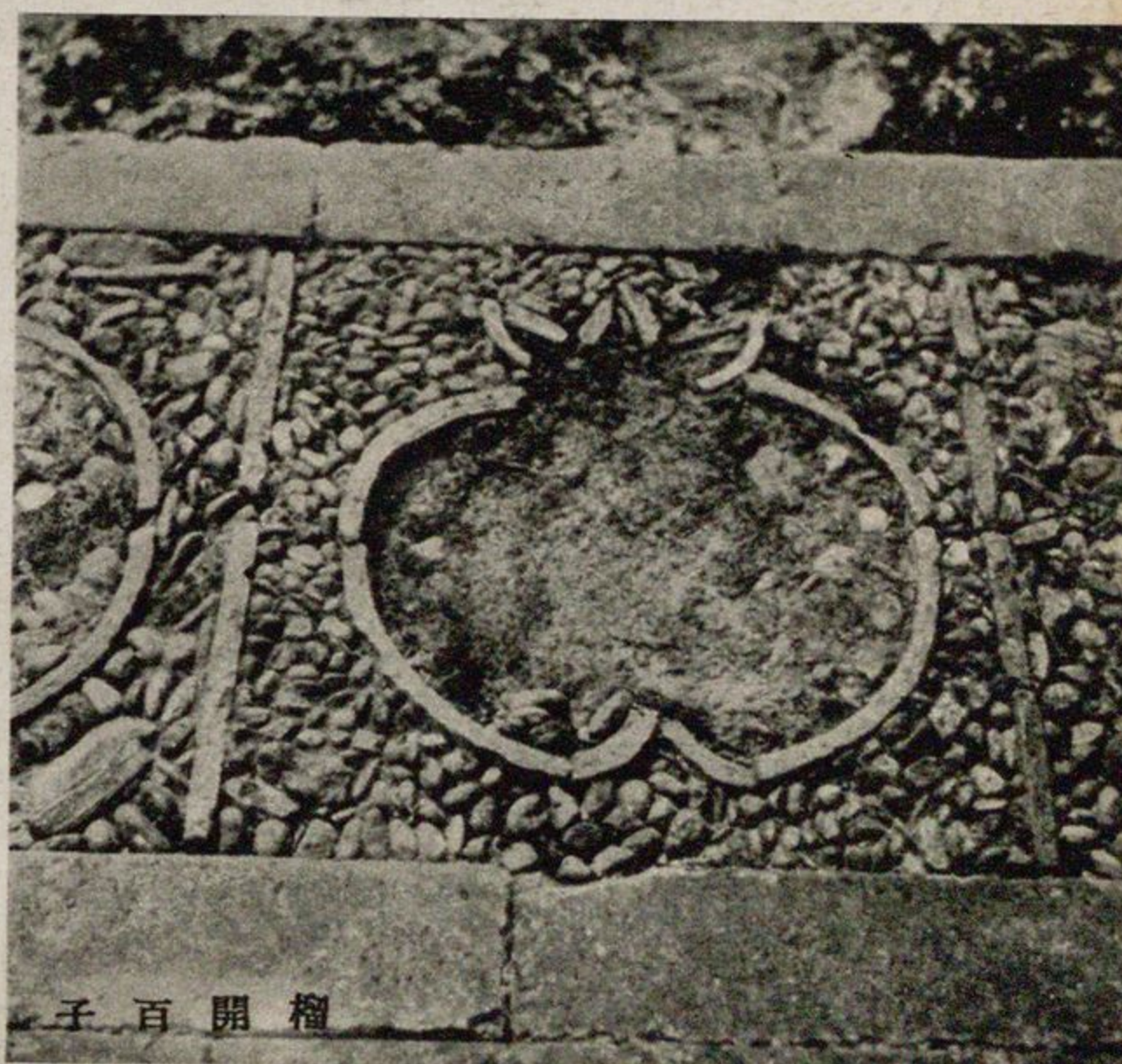
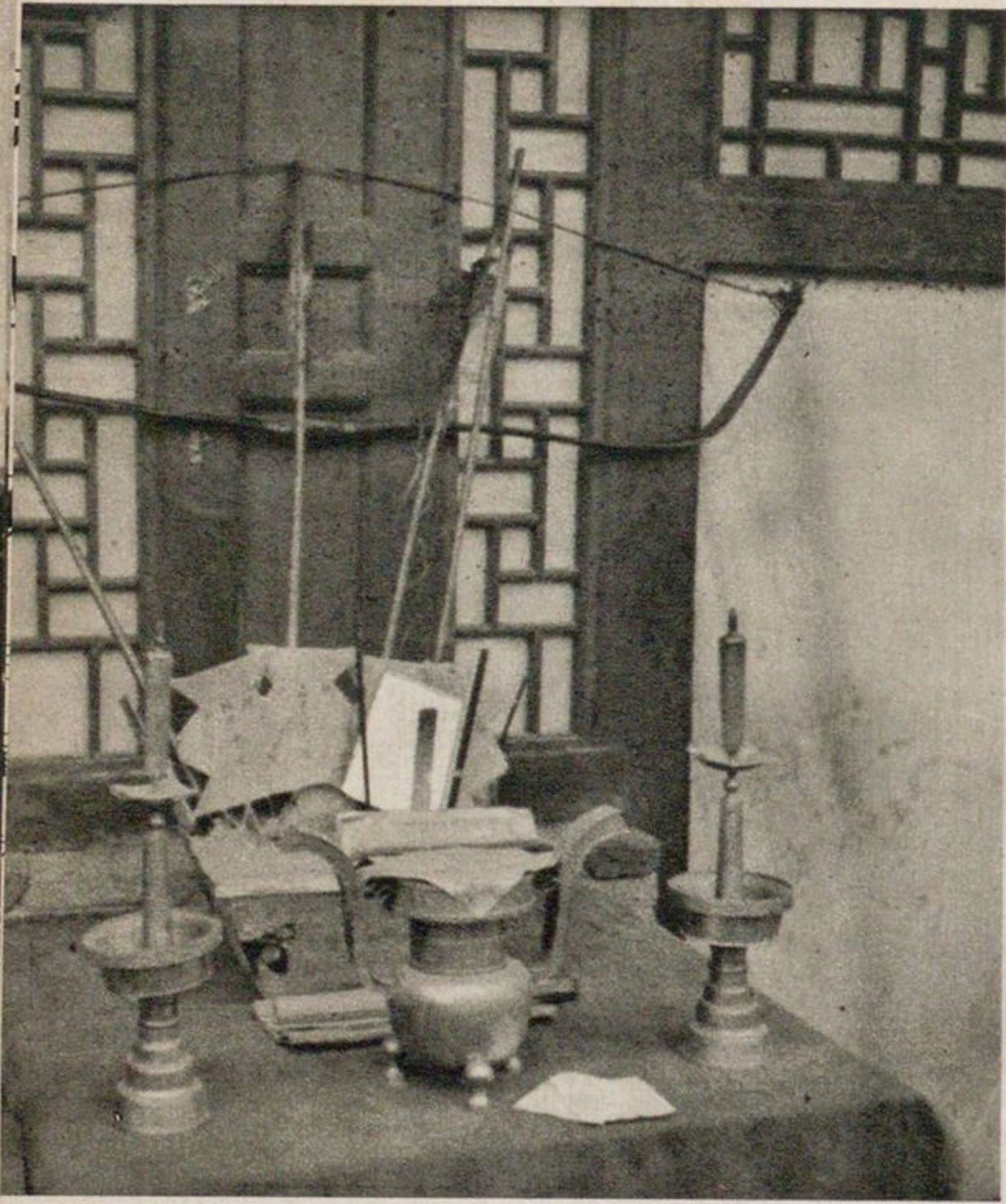
鯉躍龍門

五福捧壽

花瓶

魚形

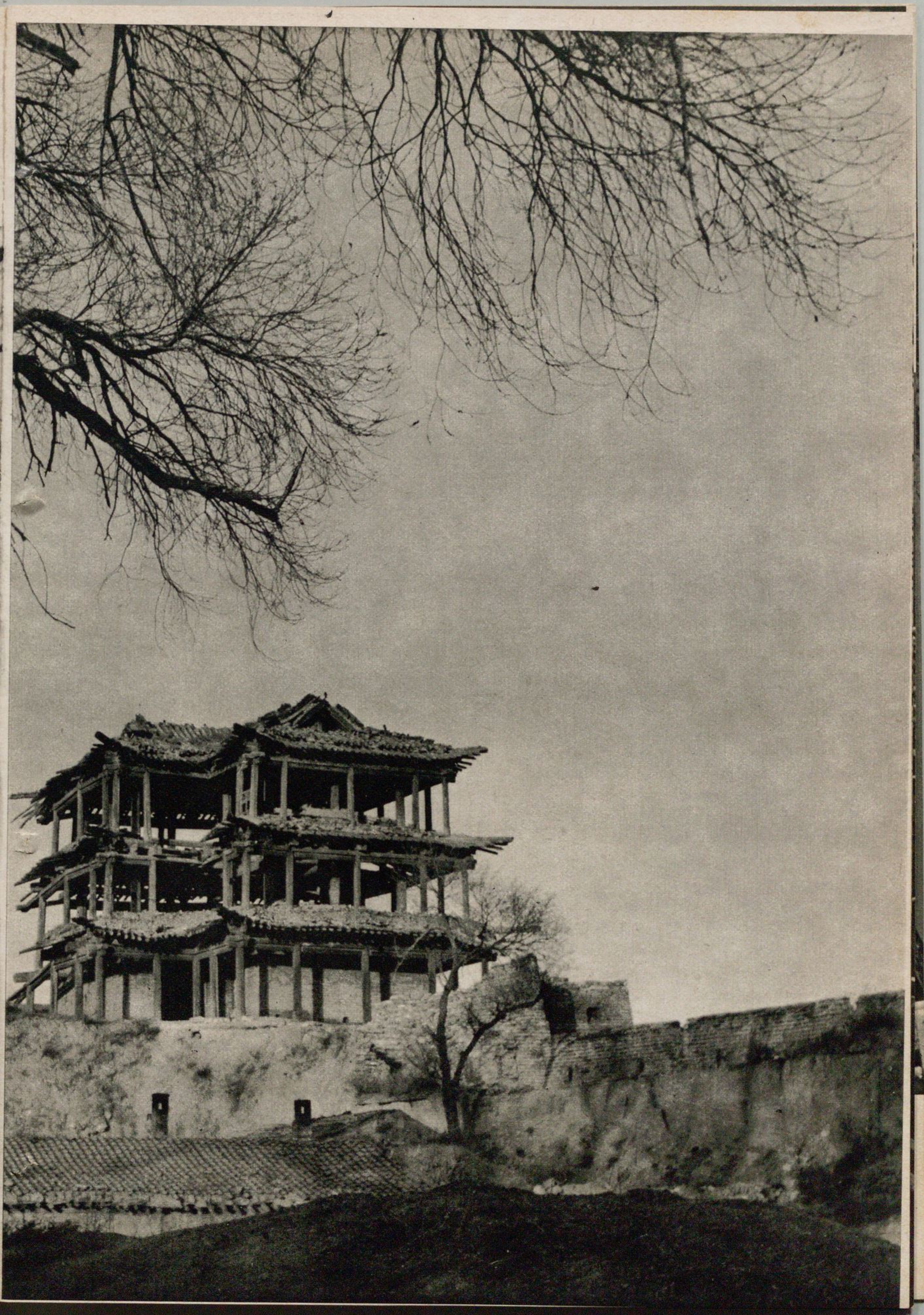
榴開百子

結婚式場の祭壇・物指、秤、
新夫婦の公正を望む意。弓、
鏡、剪、五穀は除邪降魔の

花婿の轎

花嫁の來る家

Awaiting the Bri

右の寫眞は喜棚[illegible]宴と言つて婚禮のある家の院子（内庭）に喜棚と稱する小屋を造つて親戚友人を招き早朝より御馳走する

滿艦飾の花嫁いよいよ御入來である。鳳冠をかぶり肩から霞牡をかけ胸には造花の大きな桃色の珮丹をつけて、面はゆげに靜々と人混みの中をゆく。

A Tower of the Walled
Town of Ning-wu

A Rug Manufacturing Factory

絨毯製作

絨毯は一口にいへば色羊毛で織つた敷物用の、織毛の起つたものである。そして北支那から蒙古地方の特産物の如くなつてゐる。世界的に最も有名な絨毯は、支那絨毯で、殊に天津絨毯は近年歐米人の好むところとなり、美術工藝品として、また貿易品として、極めて重要なものである。その主な輸出先は米國であつて、「米國人は絨毯を喰ふ」といはれるほど、盛にこれを愛用し、中流以上の住宅や、公共建築物には必ず敷いてある。そしてこの天津絨毯の製造地は主として北京である。されば事實上、絨毯の本場は今や北京であるといつてよい。但しその織模様等については、むしろ外國の圖案家が、歐米人好みの圖案を授けて製造させるので、支那固有の趣と異るものも少くない。しかし、龍とか、虎とか、卍模様とか、花卉、山林の文様とか、昔ながらの支那的趣致に富んだ製品も少くはない。また清初、康熙、乾隆等の製品には圖様、色調共に古典的の味のゆたかなものも見かける

北京の絨毯は、何時頃から行はれたか明かでないが、その由來は古いであらう。本來は西域地方から傳來したであらうが、特に近代、清朝の家庭や貴族の間に用ゐられてから、發達したらしい。そして西洋人の愛好心をそゝるに及んで、原料、工賃の低廉と、支那人の巧技と、支那的圖案のエキゾテイシズムとのため、壓倒的に盛大を見たものであらう

一人一日一呎乃至一呎半織られる

染めた毛糸の
めをして更に

紡がれた毛糸を染める

原毛から婦人子供によつて毛糸が紡がれる

されば張家口、包頭等の寧ろ原始味のあるべき絨毯さへ原料、技術等、大に北京近代の影響を受けてゐる。毛脚短くて圖彩の鮮麗で頗る藝術味のゆたかな寧夏絨毯の如きは、清朝初期（？）の上品で高雅なもので、却つていはゆる天津絨毯よりも面白いやうに思はれる。また熱河省の奥地で製造される、原毛の絨毯には、雅致があつて素朴な日本の茶人好みといつた絨毯が、今も製造されてゐる。しかし最近は、日本人が多數入り込んだり、國際上、經濟上等の情勢が變つたりして、絨毯工藝にも種々の變化を生じ、原料、文樣、工程等々、昔日とは必ずし

出來揚つた絨毯

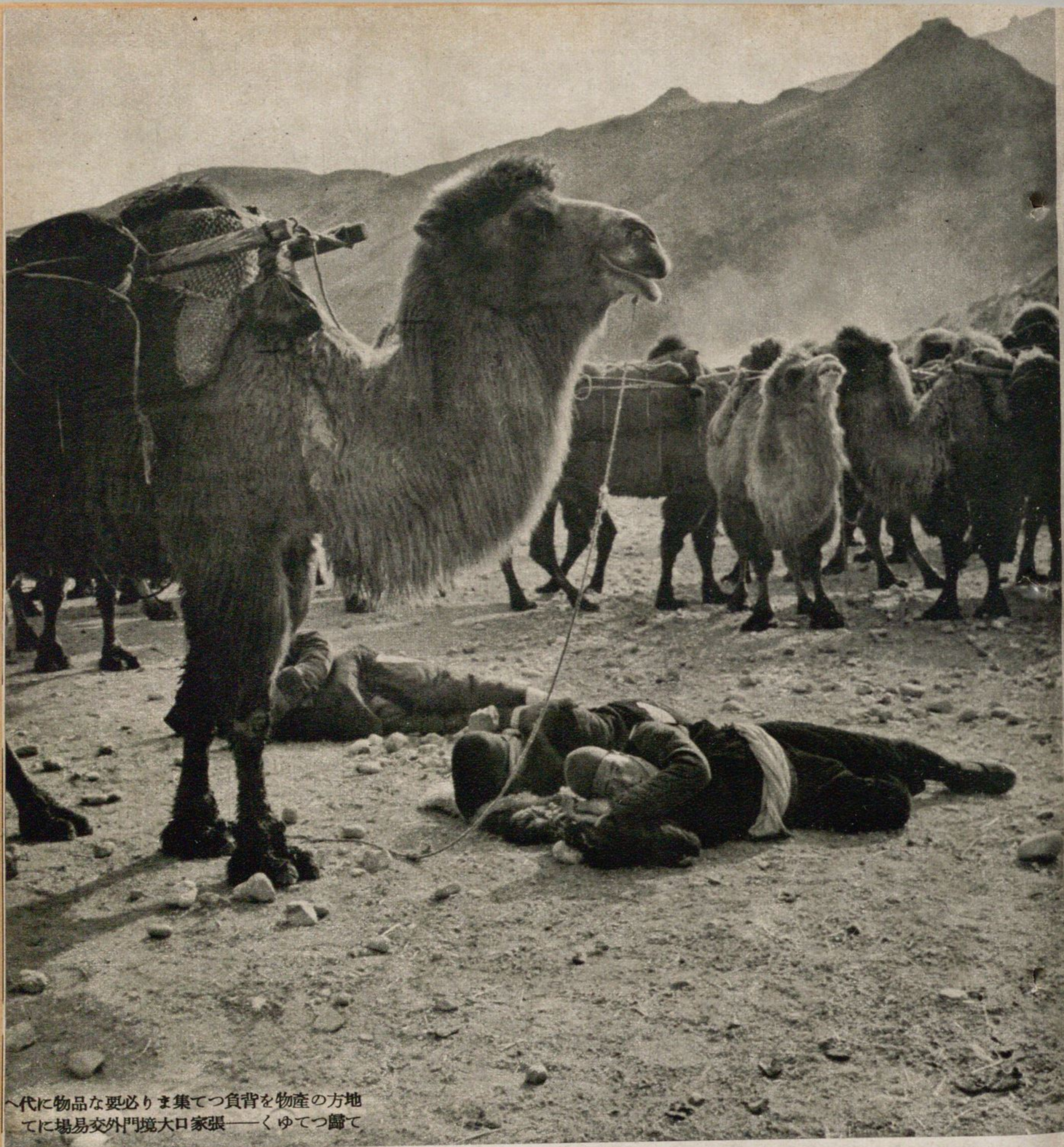
圖案を原寸大につ

天日で乾かす

染め揚つた毛糸の檢査

駱駝

北京、廣安門外

Camels

地方の産物を背負つて集まり必要な品物に代へて歸つてゆく——張家口大境門外交易場にて

蒙疆や京津地方では今日でも駱駝は重寶な輸送機關として盛んに用ゐられてゐる。五、六頭から多いときは數百頭で一隊をなし、長い縱列をなして田舍道を悠々練り歩いてゐる

左右振分けにした一頭分の荷物重量を一擔といふが、距離と季節により二百四、五十斤から四百斤位まで區々である。二—三月は百頭につき八十擔、四—五月は六十擔と暑さに向ふ程能率が下つてくる

百頭くらゐの一隊のときは二人の「先生」と稱する世話役がついてゐて、獸醫の役と他の一人は馬で先行し荷物の授受、取引や歸荷の手配等を分擔する沙漠に於ける方向や飲料水の探知にはこの二人が當るのである

獸醫は主に蹄の手當をするのであつて磨滅した患部に牛皮を麻絲で縫着けるのであるが、上手なものは一週間くらゐ保たせると云ふ。重症で全蹄脱落の際は麻袋で蹄の部分を包み荷物を卸して歩かせると二週間位で癒る

行動は午後三時頃から翌朝六時頃迄で夜間を主とし、明るくなると給餌・休養のため放牧する。これは飼料を主として牧草に求めるため夜は放牧監視に不便であり牧草のありかもわかり難いので自然、夜歩くことになつたのだといふ

隴海線のある小學校にて

外國人が土地におちつけばすぐ教會を建てるやうに、どんな前線でも日本人が集まればすぐ學校が開かれる。日本人が教育に熱心な證據でこの寫眞のやうに二年生から五年生まで合せて六人先生は校長先生と女の先生二人つきりといふ學校が方々にある。二年生は讀本を讀み五年生は習字をするといつた具合で、先生も一時に各學年を教へるので大變である。日本人が多くなると同時に學校も立派になり、北京のやうに、明治三十九年開校當時六名の生徒が現在六千名、六十五萬圓の堂々たる校舍がたつ有樣。先づ子供の教育からといふ日本人の教育熱は華北交通がその華人從事員の子弟のために鐵道沿線に建ててゐる三十校の扶輪學校が各地方の模範校となつてゐるのを見てもよくわかるわけで、無言のうちに中國人に大きな感動を與へてゐるのである

北支に於ける
日本の子供

Japanese Children in North China

どこも變らぬ住宅難で公寓（支那人のアパート）にもどんどん日本人が入りこみ支那人日本人が軒をならべて住んでゐる。疊の上にどてらを着込みあぐらをかいてゐる隣りは長々とねそべつて阿片を吸つてゐるといふ有様。一ばん早く日支親善を實踐するのは子供達で兄さん姉さんが肩をならべて學校に行つた後小さなママ事道具が中庭の石疊の上にもち出され、うろ覺えの日本語、支那語がいりまじつて大人の生活

姑娘もまじつてまゝごと、北京大東公寓にて

桐

The Paulownia Tree

隴海線碭山驛にて

桐樹は河南・山東に最も多く、桐材は漢口・天津の日本商人によつて大阪方面へ輸出される。支那では棺材に使ふ以外不吉の木材として支那商人中此の材を取扱ふ者は稀である

Carrier Pigeons

鐵道通信鳩

鐵道五千七百粁、自動車路一萬一千粁、水運三千二百粁、之が北支四省に亘る交通網であり、血の動脈である。北支、蒙疆併せて百萬平方キロに亘る尨大なる地域から生產される全物資と文化の交流は華北交通會社の持つスウヰツチによつて始めて動き流れるのである。交通網が現代文化の骨格であり、血の動脈であると稱される所以である

さて此の二萬粁に亘る交通網も何處か一個所でも故障を起したならば、人間が動脈硬化に陷つたと同樣の結果を生ずる。此の不時の故障を豫知し、豫防し保護するために現在凡ゆる手段が講じられてゐる。その中に可愛い傳書鳩が仲間入りしてゐる。なんと想ひ出しても微笑しい風景ではないか

現在會社には〇〇〇羽の傳書鳩が各沿線に配置され、鐵道、自動車、水運の連絡警備通信に用ひられてゐる

去る八月廿日同蒲線、石太線、京漢線の一部の各驛が共匪に襲擊され、無線も有線も電話も通じなくなつた時、獨り傳書鳩は迫擊砲や手榴彈の飛び散る中を勇敢に翔破して、貴重な人命を救助し、托された任務を立派に果して居る

此の他に乘合自動車やトラツク等が奧地深く出入りする場合には必らず傳書鳩を積んで途中からの連絡通信に用ゐてゐる。面白いことに傳書鳩を積んだ列車や自動車には共匪が襲擊しないとさへ言はれてゐる

又新路線建設のため山野を測量したり、道路工事等のために、奧地深く入る時には傳書鳩は唯一の通信機關として有効に用ゐられてゐる

通信文をもつて飛び立つ

病める鳩の咽喉に薬をつける

病める鳩に注射

通信文を入れる信管

通信文をひらく

無敵！國産第一位

ムッソリーニペン

スラスラ書けて
錆びず値の廉い
國産の逸品！

新生國策イリ
チュウム白金
ペン付

クラウン万年筆

書きよく
體裁優美
構造堅牢

流線型

大阪 株式會社 澤井商店

紅い正月

村上知行

『紅いお正月』——舊曆で迎へられる北京のお正月からして、私の受ける第一の印象はこれである。日本でも日の丸の旗が立つので、紅い印象が、全然ない譯ではないが、それでも北京の紅さとはチト趣きが違ふだらう。北京では先づ女達が概して紅い着物をきる。紅い靴をはく。おまけにかざす簪までも紅きを選ぶ。言ひかへれば完全に赤化してしまふので、私の家でも矢張りさうで、家内をはじめ女達が擧つて赤くなる。

中國では昔から美人の肌の色、またはかんばせのうるはしさを形容するに『紅玉』といふ文字を使ふ。たとへば『西京雜記』の中に『趙飛燕とその女弟の照儀とは、いづれもその色、紅玉のやうで、當時第一の美人であり、二人そろつて後宮に寵をほしいまゝにした』と書かれてゐるが、私としては女達が衣裳や靴や簪で赤くなつてくれるより、そんなものをかなぐり棄てた生地のまゝ紅玉のやうであつてほしい。しかしなかなかさう注文通りにはいかないので少々欝陶しい。

女達は自分等がさうして紅くなるばかりでは承知せず、手當り次第何でも彼でも紅くしようとする。言はゞ中國數千年來の傳統の道樂だからしてなかなか執拗だ。先づ最初に槍玉にあがつたのは飼猫で、いやだいやだと狂ひまはつてゐるのを、女連總掛りでギヤアギヤア言ひながら取つて押へ、毛絲の紅いのを頸に卷く。お蔭で猫は一年三百五十日、嘗て見せなかつたやうな不景氣な顏をして、しよげかへつてしまつた。

それよりもずつとをかしかつたのは狆である。私の狆には『鬚子』——つまり『鬚』といふ名がついてゐる位、顏中に長い毛が房々してゐるが、女達はそいつの額の毛を一つまみ摘みあげて、矢張り紅い毛糸を繋いだ。狆としては勿論どうもさうしたことが性に合はぬ。勢ひはじめはバタ狂つて拒んだのであるが、たうとうかなはないで降參してしまつた。何だか、私の眼には狆が昔の吉原の禿に化けて出たかのやうに見える。

ずつと以前の話であるが、私が吉祥戲院で支那劇を見物してゐると、二人の道化役が出て、次のやうな挨拶を交はした。

『お宅では皆様お變りないか?』

『はい、お蔭さまで……』

『猫もお達者か?』

『はい、お蔭さまで……』

『蚤も虱もお元氣か?』

『はい、お蔭さまで……』

私は言ふまでもなく、此の會話に驚かされた。成程中國は禮敎の邦である。世界が如何に廣くても、またその世界の國が如何に俗を異にしてゐても犬猫からくだつて蚤虱の安否まで伺ひを立てるやうな國は恐らく外にないだらう！　時と場合により、人間と犬猫蚤虱の區別がなくなつてしまふ、徹底的に平等化してしまふといふのは、兎角區別をやかましく言ふ日本人から見ると奇體でもあらうけれど、よく考へて見ると誠に鷹揚で好い。

女達が元日に赤化する——同時にそれを飼犬や飼猫にまで及ぼさんとするのは、畢竟さうした、物の區別を忘れる鷹揚さから來てゐるのかも知れぬ。するとこれは如何にも正月にふさはしい芽出度き現象だ。猫がしよげたり、

內容

狆がバタ狂つたりするのは、以ての外の不心得と言はねばならぬ。

偖て、かうした紅いお正月から、私が、直に想ふのは『赤化』といふ言葉である。だからして今し方も女達が赤化すると言つたのだ。赤と紅と、勿論文字は異なるが、日本で赤といふ場合中國では紅といふ。赤は文語では用ひられても口語ではその圏外に置かれてゐる。日本ではあべこべだ。しかし意味から言へば赤も紅も同じで、赤化が呪はれる關係上、紅化といふ字を使つて見ても容赦される氣づかひはない。

尤も此れは西洋が東洋に侵略して來てから後に『赤』若しくは『紅』の字の蒙つた大なる迷惑である。西洋では『赤』は正しく反逆の色である。勞働者の色である。農夫の色である。だからして西洋古代の、鋤鍬とる連中は日の神さまを拜するお祭りに赤色を用ひたし、また一揆を起す場合には赤旗をふり立てた。

然るに東洋ではどうかといふと、全くうらはらである。西洋で反逆のシンボルが、東洋では忠義のシンボルだ。赤心といひ、赤誠といひ、丹心といふのを西洋的な赤の觀念と比べてみると霄壤（せうじやう）の差ではあるまいか！　現に支那劇の舞臺に現はれる善人だの忠臣だのは、おほむね眞っ赤な面相である。就中一番ひどく赤に徹底した顏して出るのは劉備に仕へた關羽で、その關羽は事實はとまれ、中國の民衆からは忠義の權化として神とあがめ奉られる。

また赤は西洋で呪咀されるが、東洋ではめでたい色として喜ばれる。『翼聖記』といふ本には『天上の玉帝のゐらるゝ所は、常に紅い雲に擁せられてゐる』とかゝれてゐるが、此處に玉帝とあるのは宇宙最高の神だ。その神の座を擁する雲なら世界で一等めでたい雲だらうし、その雲の彩が紅だとあれば、なか〳〵西洋式に呪咀などして居られない。私は遠い舜の世だかに出現したといふ慶雲がどんな色であつたか、文獻を捗獵したことはないが、多分紅い色ではあるまいかと思ふ。

かやうな次第で、黒船が浦賀にきたり、唐人お吉が下田港でさめ〴〵涙を零したりすることがなかつたならば、赤は恐らく今日でも東洋でめでたくもてなされ續けたであらう。日本では成程中國ほどに赤を珍重してゐない。赤心や赤誠ならば寧ろ中國以上に尊敬しても、色彩としての赤にはさほど執念深くなかつた。さりとて今日のやうにゲヂ〳〵みたいに嫌はれることもなく、例の緋鹿の子が幅を利かしつゞけて、大和島根のすみ〴〵までうつくしき歌舞伎情調のしつとりした平和が漂つたのだらう。モダン孃がのさばり出して、緋鹿の子が影をかくしてから、急に赤への呪ひが猖獗しはじめたとは誠に意味が深い。

中國には言ふまでもなく緋鹿の子がなかつた。あつたのはたゞの紅であり、當分すたれさうもない紅である。北京をたづねた日本の人の眼に、第一にハッキリ映ずるのは、家々の門や柱の紅であらうが、それと同じ紅が中國人の頭の中を四六時中離れようとしない。何故なら紅は以上述べたやうな吉祥的意味のほかに、同時に更に人生の幸福をも象徵するからである。

北京の言葉に『走了紅運了（ツォーラホンユンラ）』といふのがある。紅運とは好い運勢、めでたき運勢を示す言葉で、一句の意味は、つまり好い運がめぐつて來たといふのである。また『紅極了（ホンチーラ）』といへば素敵に羽振りが好いといふ意味になるし、『紅姑娘（ホンクーニャン）』といへば流行兒（はやりつこ）の藝妓、『紅中（ホンチュン）』が麻雀の牌の中での立役者であることは言ふをもちひないだらうし『紅人（ホンレン）』は好運兒、『紅利（ホンリ）』は純益、『紅事（ホンシ）』は結婚その他一切の祝ひごと。但し『紅軍（ホンチュン）』となると、これは共産軍のことでちよつと工合が悪い。文字こそ紅ではあつてもめでたい數には入れられさうもない。紅顏薄命ともいふので、いくら紅くても、なかにはさう〳〵朗らかになれない紅さもあらうが、それも程度如何で、『紅軍』となるとどうも嫌はれもの扱ひを免れぬ。

兎に角、紅は東洋でもと〳〵無難な色であり、めでたい色であり、尊敬される色であつた。中國の女は呑氣なので、さうした紅が今日の世界のドサクサした環境で大いに違つた意味を持つて來たことも御存知なく、依然として昔ながらの無難な色、めでたい色、尊敬される色とばかり信じ切り、正月毎に紅くならうと努める。紅い運、すなはち好い運勢が現實的にめぐつて來ないにせよ、せめて衣裳や靴だけでも紅くならうとし、序に犬猫まで紅くする。緋鹿の子をカナグリ棄てた日本の娘とは大分ちがふやうである。

紅い柱の前に立つ紅い燈の灯に照らし出される――それが『紅いお正月』でなくして何であらう！　序に例のスイスの植物化學者ソシエールが發見したといふ Redsnow でも降つたなら尚更ら申分ない『紅い正月』だらうと思ふが、いくら北京でも雪だけはまだ白い

（筆者は北京在住著述家）

北京と陶器

佐藤 汎愛

世界中の大都市の中で最も旅人の魅力を唆る都といへば、東に「北京」西に「コンスタンチノープル」と言はれることが、通り相場になつてゐる。

私が初めて北京の地を踏んだのは大正七年の暮であつた。爾來緣あつて北京の住人となり十有餘年を過した思ひ出は、まことに忘れ難いものがある。更に又最近北京に住居することになつたことは、私にとつては恰も故郷に歸つて來たかの感がある。

特に私にとつて最も大なる魅力を感ぜしむる所以は北京の全貌が極めて美術的であり藝術的色彩が濃厚であるからである。就中北京の陶器には一種の力强い愛着を感ずる、卒直に言ふと私は陶器の中で暮し度いと思つてゐる。

北京で陶器を見る場所といへば、先づ第一に紫禁城內にある古物陳列所の武英殿、紫禁城後半の舊皇帝居住の故宮博物院、午門樓上の歷史博物館、この三つの博物館を丹念に觀る事に於て大抵の陶器愛好家は必ずや堪能することと思ふ。勿論それ以上の餘暇が有る人は個人蒐集家を訪ねる事もよからうし又琉璃廠、東四大街あたりに散在する骨董屋をあさる事も亦興味があらう。

武英殿は明末の頃は李自成が帝號を僣した處であるといはれてゐる。又淸朝の頃は書庫になつてゐたのが中華民國に至つて之を古物陳列所としたといふことである。この武英殿に先づ足を一歩踏み入れると何千の古陶磁が堂に滿ちてゐる。是等の諸陶磁をじつと分類してみると、宋代に於ては均、汝、官、哥、龍泉、東、定、吉州等の諸窯があり、次いで元の均、定、又明朝に至つては永樂、宣德、成化、正德、嘉靖、隆慶、萬曆、天啓等各年代の靑華、釉裏紅、五彩、法華等があり、又淸朝の康熙、乾隆、雍正年間の靑華、五彩等の官窯物が處狹きまで陳列されてゐる。是等の陳列品は主として宮廷品であつて丁寧に何百年の間保存され取扱はれた結果恰も新品の如き外觀を呈してゐるために世人はよくこの大部分が僞物ではあるまいかなど疑心をはさむ向もあるやうであるが、之は所謂御殿物の持つ初心さであることを念頭に置いて觀るべきである。

唯玆に一つ注意を要すべき點はこの武英殿の陶器を觀て直ちに之が支那陶磁器の全部であると信ずることは早計とせねばならぬ。卽ち此處の陳列品は前述の如く所謂官窯物であり御殿物であつて極めて美しく新鮮なものばかりであつて、民間の窯に燒かれた民窯ものが、一點も陳列されてゐないのである。吾々日本人間に非常に珍重せらるる茶がかつたものなどは一點もみることが出來ない。是等民窯の持つ雅味、靜かなる澁さなどは民窯をなで廻してみて初めて感觸する妙味である。

故宮博物院は、もと淸朝皇室居住の區域であるが、今日では之を五區劃に分けて一般の觀覽を許してゐるが其內陶器が陳列されてゐるのは主として景陽宮、御書房、承乾宮の三殿である。

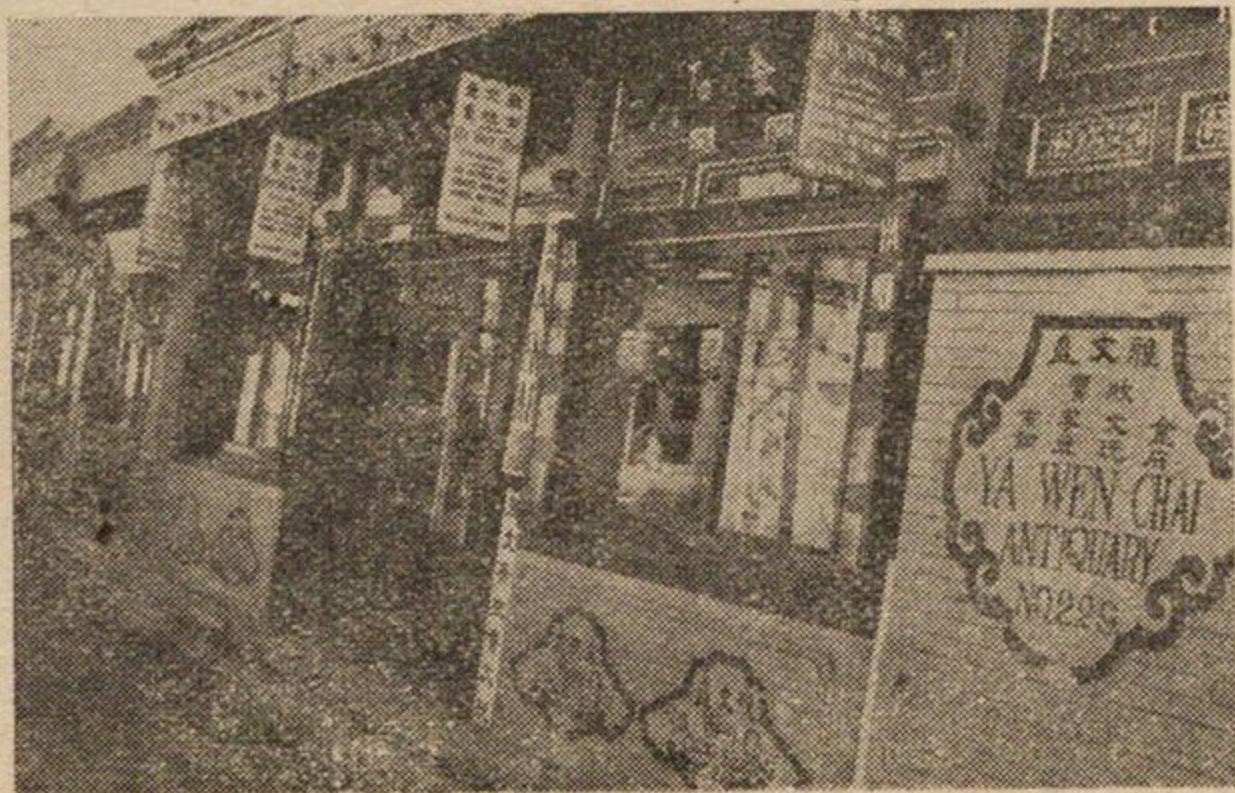
景陽宮は故宮の東部にあつて此處には宋の官、哥、定、吉州の諸窯を初め元明の仿定、建窯、五彩、靑華其他景德鎭、臨川等の白磁系統のものが主なるものである。其內で最も眼につくものには南宋郭壇下新窯、官窯のしのぎ鉢、萬曆五彩百鹿尊等が異彩であり又均窯の逸品、天目茶碗の優品等見逃が

してはならぬものである。

御書房に行くと同樣宋の哥、龍泉、汝、均、定、官窯等がずらりと列んでをり下段の陳列棚には明の青磁、孔雀綠、青華、五彩等がをさめられてゐるが是等の陳列中では宋の均窯が白眉であり、龍泉窯青磁の名品が眼をひく。

承乾宮には淸朝古月軒の彩磁が陳列されてゐる。古月軒の磁器は極めて精巧細緻なる上繪付をしたものであつて淸朝時代の密繪を其儘燒物に移したものと見ればよい。外國人間には一點數萬金の價格を呼ぶ品ものである。

要するに故宮博物院の景陽宮と御書房とは武英殿とは別に宋代の官窯ものに集中してゐる處であつて殊に此時代の官窯物を見分ける修業には此處をおいて他にないと云つてもよい。又承乾宮では市場には殆んど見ることの出來ぬ古月軒の眞物を硏究する唯一の個所である。この三宮の陳列品は舊淸朝皇室の御用品で、武英殿に比べるとより多くの親しみがあり、氣輕に落付いて鑑賞することが出來るのはうれしい。

歷史博物館は、宮禁前面に聳える午門の樓上にある。この博物館には唐代の土偶や日本からの寄贈品等も陳列されてゐるが觀るべき重なるものといへば、鉅鹿の發掘品である。鉅鹿といふ處は今の河北省、故の直隸省で京漢線の東、臨城及邢臺（順德府）との三角

形を爲す地點である。宋の徽宗帝の大觀（西一一〇七――一一一一）三年秋黃河が氾濫して出水高二丈餘に及び此地點が埋沒してしまつたといふことであるが、民國九年に此地方が旱魃で農民が水に困つた末深い井戸を掘つたところが古い陶器が出て來たとのことで當時この發掘品が北京に運ばれ愛陶家を驚かしたものであつた。其後民國十年七月に北京大學を中心とした一隊が此地を發掘して得た二百餘點が主たる陳列品である。是等の出土陶には宋窯の特色が具はつてをり且つ一種の特徵がある。尙面白いことには古墳の發掘品と異つて凡て日用品であつた關係から又別個の面白味がある。この鉅鹿陶は宋の哲宗、徽宗帝時代の所產であつて主として宋代の北方靑磁と黑、白定窯系統の民窯ものが其大部分であつて其形は陶枕、茶碗、壺、鉢等が重である。大體に於てこの鉅鹿陶はまことによい味がそなはり、雅味掬すべき品位がある。陶器の外には今から八百餘年以前に日常使用されてゐた石のストーヴや雜木の椅子等もあつて硏究上貴重なる品であつたが、最近この二品は何れかへ運ばれてしまつて觀ることが出來なくなつたのは甚だ遺憾である。

次は蒐集家を訪ねて藏品を見ることであるが、現在北京の蒐集家としては中南銀行の鄭蘊生氏、萬壽山內の郭世五氏等が有名であるが、餘程よい手蔓を得ないと六ケしい。

骨董屋をあさつて陶器を觀るには先づ第一に足を琉璃廠に向けるべきであらう。琉璃廠は前門外にあつて、日本にも名が響いてゐる骨董屋街である。この琉璃廠で比較的上手ものを扱ふ店としては、雅文齋、文古齋、大觀齋、靜觀齋、銘珍齋等が其重なるものである、又琉璃廠の東入口から更に東に入つた細い街が炭兒胡同と云つて、此處には懋記、華古山房、大泉山房等が一流どころであり、前門外長巷二條胡同の陳養泉君、興隆店內復興齋、南河沿街の夏君等が大手筋と云はれてゐる。又東四大街の郭華齋、榮興祥、天和齋等も特色ある店である。

然し是等の骨董屋へ行つても單に店頭に列べてある陶磁器類は大した品は先づないと云つてもよい。彼等が奧の部屋に納めてある上品、名器を見るには矢張り彼等と顏見知りの人に案內を依賴する事が上々の策であると思ふ。

以上は極めて簡單なる北京の陶器を見る手引に過ぎないが、何としても北京は東洋美術工藝の寶庫であり、陶器のメッカともいふべき都會である。陶器の好きな人は是非一度北京に遊ぶべきである。好きでない人も北京に遊んだら一度は武英殿其他の陳列所を一通り見て貰ひ度い。北京は從來數次の政變兵火に拘はらず、之等世界工藝の精華がまだ〲よく保存せられてゐることは支那の爲ばかりでなく、東洋のために多とし幸とせねばならぬ。

（筆者は華北交通資業局員）

中國電影皇后「胡蝶」

支那映畫瞥見

全 先 喬

支那映畫が世界的に認められるに至つたのは一九三五年二月蘇聯モスコーに於て「インドルキノ」主催の下に國際映畫コンクールが開催されました時選外佳作として「ミモザ館」「麥の秋」と共に蔡楚生の「漁光曲」が選出されて、其時の出品二百餘本の中第九位を占めたことに始まるのです。

從つて監督蔡楚生は支那映畫發達史上に大きな劃期的な役割を務めた人であると云ふことが出來ます。彼は、名畫「漁光曲」「新女性」「迷途的羔羊」を世に送り國際的にその存在を認めらるゝに至つたのであります。

彼の映畫は時恰も支那の民族的轉換の時代的環境の下に歷史的な背景と社會的テーマーを持つた映畫であつた爲一しきり其名は喧傳されたのです。

演出家蔡楚生と對照して考へられるのは映畫女優としての胡蝶であります彼女の地位は今日に於ても、支那映畫界の重鎭であることは勿論でありますが、彼女は日本映畫の初期（所謂映畫劇と言はれた頃）の蒲田の栗島澄子と向島の岡田嘉子がなして來た役割を一人二役で支那映畫史に於てやりとげて居り、然も尙今日大船の田中絹代見たいに悲劇にも喜劇にも中年女にも人妻にも職業婦人にも女學生にも――凡ゆる性格の女を表現し得る萬能のアビリテイを持つて居て、スターとしての貫錄を、堂々と保持して居るのです。

彼女主演の映畫は相當の數にのぼつてゐるのでありますが、一九三四年撮影の「空谷蘭」一九三五年度に於ける「夜來香」一九三六年度の「女權」「永遠的微笑」（全部トーキー）等に於て彼女の圓熟した演技は、全支那の影迷（映畫ファン）を悩殺したのでした。

彼女が過去十數年間よくその中國電影皇后の地位を確保し、來たことに對して、支那の映畫批評家は支那製メリー・ピックフォードと稱して演技に於て優れてゐるのではないが美貌と風格で得をしてゐるのだと評して居ります。

彼女は一九三七年以來上海より香港に居を移して映畫への出演を中止してゐる樣ですが、然しそれだからと言つて彼女は全然斷念したのではなく映畫に對する意慾は大いに動いて居り、最近は映畫會社を設立してプロデューサーとして、再出發することを考へてゐるさうですから、今後の彼女の發展と特に其が支那映畫界に及ぼす影響は甚だ興味ある問題と思はれます。

支那映畫發達史を繙いて見ると大體五つの時期に分けることが出來ます。

第一期は、一九〇九年から一九二一年に至る迄の歐米映畫の影響を受けた土着映畫の崩芽期であり、この時期に於ては主としてニュース、喜劇、短篇物でありました。

第二期は、一九二一年から一九二六年に至る迄の土着映畫の繁盛期で、この時期に於て支那映畫は漸く陣容を整へ、社會、敎育、戀愛、戰爭等凡ゆる方面に取材して一時に開花した觀を呈したのですが、技術的にも又構成上にも未だ幼稚さを免れなかつたのです。

第三期は、一九二六年から一九三〇年に至る迄の土着映畫の中落期であつて、この時期に於ては武俠（活劇）、神怪（怪異劇）、探偵劇等興味本位の映畫が製作され、例へば當時大衆の喝采を拍した明星公司作品「火燒紅蓮寺」の如き時代劇が多く、眞面目な作品は姿を消し、映畫は低級な娯樂品としてのみ、其の意義を留めてゐたのです。

第四期は、一九三一年から日支事變の起る直前、即ち一九三六年に至る迄の土着映畫の復興期であつて、この時期に於ては從來轉變暇なかつた各映畫會社間に整理合併の淘汰が行はれて漸次企業的統一が着き、一方歐米トーキー映畫の影響を受けてトーキー製作へと發展したのであります。

特に九、一八（滿洲事變）一、二八（上海事變）の刺戟と人民戰線昂揚の影響に依つて民族的には國防電影、思想的には反帝反封建電影、技術的には寫實主義電影が高唱され例へば岳楓演出の「逃亡」蔡楚生演出の「漁光曲」「新女性」羅明佑演出の「天倫」等社會的テーマーを取扱つた作品が續出して絢爛たる復興を示し、更に發展する段階に在つたのであります。

第五期は、一九三七年から一九四〇年に至る迄の――即ち蘆溝橋の砲聲を契機とする日支事變の勃發から長期抗戰の第三期に入る今日迄の土着映畫の苦悶期で、從來上海を中心とした支那映畫は戰火のため重慶、主として香港へと逃れ、民族的感情より抗日映畫製作へと狂奔し、例へば卜萬蒼演出、陳雲裳主演の「木蘭從軍」の如き時局を反映した抗日的時代劇が民衆の喝采を拍したが、長期抗戰となるに從ひ一時的感情が漸次冷却すると共に懷疑的となり批判的となつて、目下主として戰時中の健全なる教育的娯樂的映畫の製作が企圖されて居り、支那映畫は、一つの大いなる轉換期にあると言へます。そして此の歷史的モメントに如何に對處して行くかと言ふ點に支那映畫の明日の課題があると思はれす。

さて、支那映畫一般に就て述べるとその個々の技術形式、例へば撮影や錄音のメカニズムとか或は俳優の指導法畫面のモンタージュの技巧等に於ては普通に日本映畫の方が年代的に五、六年は進んでゐると言はれて居ります。

しかし支那の映畫はこの國の持つ特殊的（半封建的、半植民地的）文化環境からして日本以上に或る點に於てはリベラルであるため、其作品は思ひきり自由であり大膽であり放埒です。

特にトーキーに於ける支那語（北京官話）の持つリズミカルな美しさは日本語トーキーより遙かに音樂的な優位をもつて居る様に思はれますし、支那映畫がもつと眞面目に研究され企圖されたならばその將來性、特にその國際性は發展の希望があると思はれます。

今度の事變により上海を中心として發展し繁榮して來た支那映畫は殆んど潰滅してしまつたのですが、其再建は支那民衆の生活と文化のために最も緊要であることは言ふ迄もありません。

然し、今日の支那自身には其力が無く、又此方面に對する外國の投資も期待出來ないのですから、今後は日本の力に依てこの面の指導補足が行はれねばならないのであります。

「木蘭從軍」の映畫に現はれてゐる抗日支那の文化戰線は我々にとつてさして强力なものではないのでありますが然し事變の直後一九三七年暮東寶キネマに依て企圖された大陸映畫「東洋平和の道」の持つ便宜主義的な文化工作では到底安價な抗日映畫ですら是正出來ないと思ふのであります。

もつと深く掘下げて現地の文化的雰圍氣を質的に向上させると同時に支那民衆を本格的に吸集すると言ふ方向に進まねばならないのであります。さうした意味を持つて最近當地に華北電影公司が設立され

「文化戰線强化の緊急な課題は文化工作の企圖と組織を此際更に一段と高度化し且つ擴大することにある」

と言ふ方向に進みつつあることは、支那映畫を健全なる方向に導くものとして大變喜ばしいことと思はれるのであります。

（筆者は在北京支那映畫研究家）

北支の農諺

みづの・かほる

支那は文字の國、文章の國である。そして又言葉の上手な、それに諧謔の好きな國民である。さればこそ北支の農村には、數多い俚諺が言ひ傳へられてゐるのであらう。もと〳〵その起りはと言へば、ある老農の一と言が、ある有識な百姓の體驗話の一と口が、或は又誰かゞ言ひ出した名文句が、今日各地各様の俚諺として殘つたものではあらう。

私のこゝに物語らうとする俚諺は、その内の農業に關係あるものであるが、この種の俚諺を北支の農村の隅々から拾ひ集めたら、おそらく數百或は數千を數へるかも知れない。だがその内には、隨分類似のものもたくさんあるやうである。これは、一つ俚諺が言ひ傳へられてゐる間に、時間的に或は距離的に、燒き直されたり或は誤り傳へられたりして、次第に變化したものだと見るべきで、だからこれらを分類整理して見ると、案外もとの數は少い。

農業俚諺は、ほんの一と口文句である。短いのは僅かに數文字、長くても二十文字を越えるものは、殆んど無いと言つてもいゝ位である。その僅か幾文字か、十幾文字の集りで——そして口ずさみ易いやうな一種の語調をもたせて——、百姓の眞髄を傳へ、農業の技術を說き、何ものかを訓へ、何ものかを諷刺してゐる。無意味な俚諺は、たとへこの世に生れ出ても、決して長く傳へられるものではなく、いつとはなしに廢たれてしまふものであると、筆者は思ふ。少くとも今日傳へられてゐる農業俚諺は、北支農業の何をかを物語つてゐるものだと考へてよい。

そこで筆者は、北支の農業を知らうとするほどの方には、是非北支の農業俚諺に、せめて一瞥でも與へて貰ひたいと希ふものである。筆者は十數年前から、滿洲や北支の農業俚諺をかう言つた意味から集めもし、又これを世に紹介したこともあるが、筆者自身としても、北支の農業を理解する上に、この俚諺がどれだけ役立つたことか知れない。

水くみ・北京郊外にて

尚これは餘談であるが、支那人と交際をする上に、この種の俚諺を心得てゐて、話の合ひ間に、支那にはこんな諺があるからねなど、一と口挾むと、時には千萬の言を吐くよりも効果的な場合がある。ことに直接農民に接觸すべき地位や職場に居られる方は、是非この俚諺の十位も覺えて置いて、そして然るべき機會に活用して見られるがいゝ。それこそ農村の文字を解する有識階級の人達が、目を見張つて、この日本人は支那事情に通じてゐる。ものわかりがいゝと言つたやうなあんばいで、心やすく接近して來ること請合ひである。そこが支那の文字の國、文章の國である所以であり、又話好きの交際上手の、そして諧謔を好む人達である所以でもある。

近頃使はれてゐる言葉に、民心を摑むといふ言葉がある。筆者は、この言葉は少し無理な言葉だと、いつも思ふのであるが——摑まうとすると、とかくものは逃げたがる。むしろ民心をなびかすとか、引き寄せるとか言ひたいのだが——、もしこの言葉をこゝに使ふことを許されるならば、北支農村の民心を摑む要領は、俚諺を知り俚諺を活用すると言つたやうな、こんな茶飯事のなかにも轉つてゐるのではないか。

さて餘談は置いて、次に數多い北支の農業俚諺のうちから、比較的意味深いものを並べて見よう。譯は拙い筆者の手になつたもので、出來るだけ七七

七五の語調に揃へた。御笑覧を乞ふ。

×農業を禮讃したもの

1、擡頭求人、不如低頭求土
人にたよつて行くよりや土に
土に歸つて身を立てよ

2、生意眼前花、鋤頭落地是莊稼
浮いた商賣さらりと止めて
百姓根強く土に立と

3、坐買行商、不如開荒
商(あきなひ)するより荒地を鋤いて
末をたのしく土に生く

×勤勉であれと訓へたもの

4、莊稼無他巧、惟有勤耕彙鋤草
たとへ上手と下手とはあれど
かせぐ百姓に實は結ぶ

5、人勤、地不懶
百姓せつせと働こならば
土地も懶けず作も伸ぶ

6、莊稼要早起、買賣要算計
百姓するなら早起きなされ
商賣算盤先づ最初

7、早起三朝當一工
油斷なさるな一日仕事
三日早起きすりや足りる

8、莊農人家三件寶、醜妻近地破綿襖
百姓の三寶屋敷畑に
糟糠の妻破れ着物

×子弟の躾の必要を訓へたもの

9、種地要養猪、養兒要攻書
百姓するなら豚飼ひなされ
子供育てりや讀み書きを

10、小孩要管、小樹要修
小供は躾が何より大事
苗木は手入を第一に

11、家藏萬石糧、不如養兒入學堂
倉に萬石穀積むよりも
可愛い子供に智慧を積め

×施肥の必要を訓へたもの

12、掃帚響糞堆長、好打官司地畝爽
庭の掃除で肥料(こやし)は殖える
裁判沙汰すりや土地が減る

13、歇地不如上糞
土地を一年休ますよりも
肥料よく入れよく作れ

14、有錢是好漢、有糞是好田
金がありやこそ男もあがる
肥料してこそ田もこえる

15、種地不施糞、年々跟人混
肥料やらない百姓の末は
貧する鈍する落ちぶれる

16、種地沒巧、糞工水飽
百姓するには三つの秘傳
肥料に水によい手入れ

17、勤拾糞少趕集、一年多置二畝地
市(いち)に出かける暇があれば
糞を拾つて肥つくろ

18、糞坑是個聚寶盆
肥料溜こそ百姓にとつて
寶集める寶つぼ

19、積糞如積糧、積糧如積金
肥料造るは穀作ること
穀を作るは金つくり

20、巧種不勝多施糞
如何に上手に作ろとしても
肥料やらずになんで伸ぼ

21、種地要三不哄、糞不哄地、飯不哄傭
草不哄畜性
百姓三料肥料に飼料
家の下男へよい飯料

×集約耕作の必要を訓へたもの

22、種地要深耕、鏟地要加工
畑打つなら深々起こそ
草取りこまめに丁寧に

23、種多不如種少、種少不如種好
手廣くするより手狹い土地で
心くだいてよく作れ

24、一畝菜園、十畝田
一畝菜園(せ)十畝の五穀
秋の手どりは同じこと

25、種地不使本兒、越種越着緊兒
百姓やろとて資本が無けりや
無けりや百姓も引き合はぬ

×乾燥農業の特質を訓へたもの

26、旱了、鋤頭會生水
旱りや旱るほどけづろよ草を
削りや旱りも何んのその

27、有錢難買苗
種を蒔くには上手に蒔こよ
金はあつても芽は買へぬ

28、春種深、夏種淺
春に蒔くもな深々蒔いて
夏は蒔くもな淺く蒔こ

29、不怕鋤的淺、但怕鋤的遠
少しや粗末な鍬使ひでも
度數重ねりや作は伸ぶ

30、旱鋤田、澇澆園
照れば照るほど畑にや鍬を
菜園降ろと水かけを

31、耕三耙四鋤八遍、不下雨也耐旱
耕(がん)三耙(ぱあ)四鋤(つう)八遍
どんな旱りも怖くない

32、旱鋤一頓、强如施糞
旱目に行ふ一度の手入れ
肥料やるより效(き)めあり

33、花鋤七遍、疙疸連串
棉の畑を七遍鋤けば
珠數の數ほど蒴(もい)がなる

×作物の豐凶に就て訓へたもの

34、高粱稗、十年九在
稗に高粱十年に九年
不作知らず作りよい　（次號へ續く）

（筆者は華北交通資業局參與）

支那紙の話

安藤更生

支那紙は、昔から毎年かなりの分量が日本に輸入されて居るにも拘らず、日本人の支那紙に對する知識は極めて貧弱である。一番多くの關心を持つてゐる筈の日本畫家や書家などでも、宣紙の白いものなら何でも畫仙紙といふ名で片附けてしまひ、紅い無地の紙なら何でも紅唐紙といふ名で一括してしまふ。少し黄味を帶びた紙なら石竹で造る元書紙でも、藁と竹で造る毛邊紙でも同じく唐紙と呼んで怪まない。昨年、早稻田の教授實藤君と共に、北京で支那の書畫や書籍に現在用ひる紙を六十種ばかり蒐め、これを三十部の本に仕立てゝ『華紙類選』と名づけて、母校の圖書館をはじめ師友に贈呈したが「支那紙にあんなに種類が多いとは思はなかつた」と云つて來た人が大分あつた。何ぞ知らん、支那の南紙店で取扱つてゐる紙の種類は一千種を超えるので、六十種などといふのは、人にも話せないくらゐ恥しい數なのだ。

支那紙の材料は、主に竹、樹皮、高粱の藁、稻藁、葦、麻等であるが、多くはこれらを混用して作るのである。

それで大別すると、稚竹を用ひて造る**竹紙**、樹皮を以て造る**皮紙**、稻藁や高粱藁で造る**藁紙**、反故を漉き返して造る**反故紙**の四種になる。このほかに以上の紙類に染色したり加工したりした**染色紙**、**加工紙**がある。

實業部の調査に據ると、全國の製紙所は計五萬六千戸、男工二十七萬五千人、女工二萬三千五百人、年產額五千四百八十六萬元餘に達する。

產地は江西省が第一で、全國製紙額の三分ノ一を占める。宜春縣、萬載縣が主產地である。浙江は製紙に從事するもの約二十萬人、年產額二千萬元餘產出量は富陽が最も多い。次は福建で四川、安徽、湖南、廣東等之に次ぐ。主に南方諸省であるから、これらの地方產の紙を、**南紙**と稱する。これを賣る紙屋が卽ち南紙店である。これに對して、北京附近で產する紙を**京紙**といふ。

皮紙類では、宣紙が最も上等であり種類も多い。安徽省の宣城が原產地であるので、宣紙の名がある。白色のキメの細かい紙で、墨つきのよさ、發墨の調子、到底他の紙類の及ぶところでない。唐時代に於て、旣に有名であつた。近頃は江西でも造るらしい。材料は稻藁に一種の桑の樹の皮を混じて造るので、種類は頗る多く、棉連紙、夾連紙、蟬衣宣、六吉宣、煮硾牋、雲母牋、羅文宣、玉版宣、などは主なるものである。いづれも上等な、特に書畫用に作つたものだから、美術家は一度この紙の味を覺えたら、他の紙は使へない。畫家や書家の最も推重するのは玉版宣で、これは四尺紙が近頃北京でも一枚三十五六錢するが、日本では一圓以上もしてゐる。瑩潤玉の如く、蓋し支那紙中の王である。

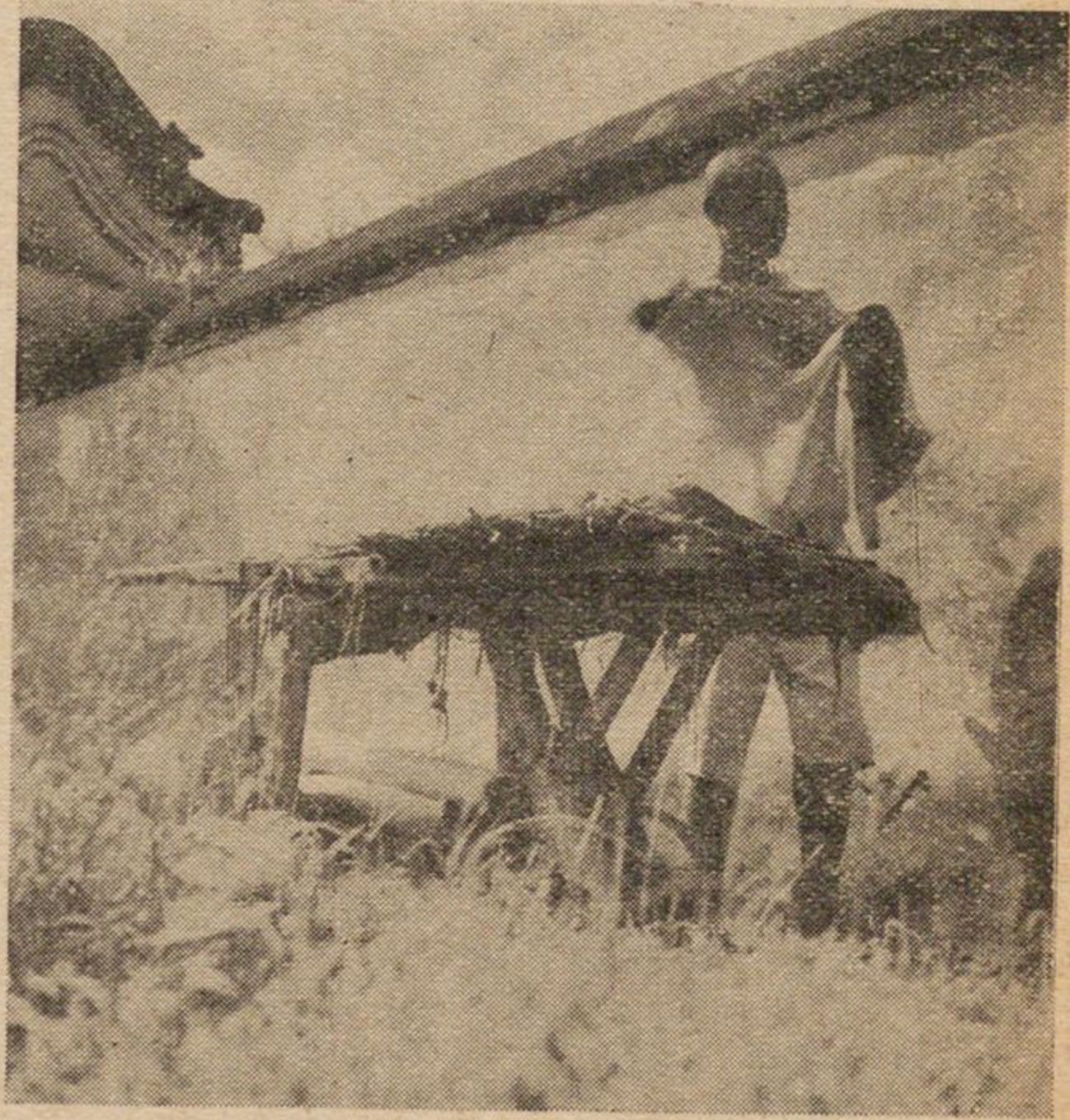
普通に、厚手の畫仙紙と日本で云つてゐるものは六吉宣で、一名を料半紙といふ。拓本（石刷り）には棉連紙に限るやうだ。蟬衣宣は薄手の宣紙に雲母を刷いたもので、蟬の翅の薄きに比しての名である。同じやうなので厚手のに雲母牋がある。

色紙の上等なのは、大概、宣紙に加工したものである。掛物や對聯になつてゐるもので、色紙を用ひてゐるものは先づ宣紙だと思つていゝ。日本で藏經紙と云つてゐる斑雪のやうな模樣のある虎皮宣、青磁色のもの、ジョオン

シトロンのもの、金箔を散らしたものなど、加工した宣紙の種類は、枚擧にいとまがない。それに各々桃紅素宣とか、磁青、鵝黃素宣、冷金宣、魚子宣雨雪宣など丶、支那一流のうまい名前がつけてある。

竹紙は、名の如く稚竹を原料とする古くは浙江の剡縣が有名で、『嘉泰會稽志』にも「剡の藤紙名を得ること最も舊し、その次は苔牋、今獨り竹紙天下に名あり、竹紙の上品に三あり、曰く姚黃、曰く學士、曰く邵公、工書者之を喜ぶ」など丶見えてゐる。今は盛に江西省で造る。湖南省も仲々盛で、邵陽、瀏陽が主產地、年產額百萬元である。福建でも之を產し、近頃、臺灣でも造るさうである。

所謂竹紙本に用ひる紙は、川連紙といふので、これは子供の習字用にも使はれる。葬式の時に撒く紙錢は變中扛連紙といふ竹紙で作る。貢格紙は上等な、しつかりした紙で、一尺八寸に八寸五分位の、横長の紙であるが、詩箋や封筒などに用ひる。

草紙をつくる（壁に貼つて乾かす）北京にて

毛邊紙は竹と藥とを主材料にして作られる。これは福建が多い。普通のは日本では、俗に二番唐紙と呼ばれてゐる。墨つきのい丶紙で、書畫や書籍に用ひられ、その他包み紙や、食事の時の茶碗や箸を拭く紙に用ひられる。なほ日本で俗に一番唐紙と呼ばれてゐるものは、毛邊紙によく似てゐるが、これは元書紙と云つて毛邊紙ではない。用途は略々同じだが、判は小さい。五把黃毛邊といふのは、佛敎や道敎の經典に用ひられる、黃色味の強い紙である。

藁紙類には坑邊紙、草紙等がある。南では稻藁、北方では高粱藁を以て製造する。

製紙材料の乏しい地方では、やむなく他地方から輸入し、更にその反古を材料にして漉き返した反故紙、一名反魂紙を用ひる。白呈文といふのは、名前は洒落れてゐるが、日本でいふ淺草紙と同じ反魂紙で用途も同じである。

面白いのは、支那では朝鮮紙が珍重されることで、髮尖紙といふのは朝鮮紙の上等を模したものだが、三尺に一尺六寸のが一枚二圓もする。これも江西で作るやうだが、これなど朝鮮から輸出したら相當面白い販路が開けるのではないかと思ふ。また高麗紙といふのがある。名の通りもと朝鮮紙を模したものだが、多く窓に貼られる。これに似た紙では文宣といふのがあり、窓や壁に貼られるが、長さ一丈四尺五寸に幅三尺六寸といふベラボウに大きな紙である。これは河北の遷安で作られる。

支那紙が藥になるといふと、笑ふ人があるかも知れないが、事實支那では昔から今でも紙を藥用に供してゐる。『本草綱目』の器部によると、楮紙、卽ち「かうぞ」で造つた紙を燒いた灰は、吐血を止め、金瘡の出血を止めるに效がある。竹紙に犬の毛を包んで燒いたものを酒で服むと痔がとまる。傘の使ひ古しの桐油紙は、燒いて服むと發汗劑になる。

烏金紙といふのは、金箔を造る時に使ふ紙だが、金を紙に包んで之を槌で叩くと、その金が延びてゆくうちにもいくらかづ丶紙に附着して、初めは褐色をしてゐるが、次第に黑光りを生じて來る。これが烏金紙だが、それを燒いて粉末にし、氷のかけらに混ぜて用ひると橫痃が癒るといふ。北京の胡同で國醫何とか大夫と稱して、金看板を上げてゐる連中は大抵こんな藥を使つてゐるのである。

（筆者は新民印書館員）

可園雜記

加藤 新吉

羅といふ老人が毎週三回家人に支那語を敎へに來る。年は六十位、その容子も生活も全く舊い支那の典型みたいに見える老人である。

羅先生は頂戴郎（ティンタイ）ちつまみの附いた支那帽子をかぶり、長衣（チャンイィ）に馬掛兒（マーコワル）といふ上衣をきて、褲子（クーツ）即ちずぼんの裾を脚（チァオ）帶（タイ）できちんと結んで鞋（シエ）をはいてゐる。支那服に中折帽をかぶつたり革靴をはいたり、馬掛兒は着たり着なかつたり脚帶は大抵省略といふ人が多い世の中に、これはまた餘りにも几帳面に舊きを墨守してゐる老人である。たゞ握りに象牙のついた籐の洋杖を携へてゐるので、これでもやはり現代の人間だなといふことが判る。

この老人は淸朝の遺臣、まだ聞いてはみないが、秀才かひよつとすると擧人出身なのかも知れないと思はれるふしがある。官吏としても相當の地位に上り、財政方面の役所に居たといふのに賄賂をとる能がなかつたのか、その意思がなかつたのか、ともかく餘生を安樂に送るに足るだけの蓄財をしなかつたと見えて、鼓樓の近くの陋巷に細細とした煙を立てゝ居る。

彼は多少身分とか經歷とかをもつた支那人の例に洩れず、多數の家族を擁して居る。彼の二人の息子が死んだ爲に、子供を伴れた二人の寡婦が彼にかかつて居る。彼の亡兄の寡婦も居る。兄の子は歐羅巴に醫學の勉强に行つてゐるが近來音信不通、その妻がまた子供を伴れて寄りかゝつて來てゐる。そこで老妻をはじめとして女と子供ばかり十一人、誰も一錢も儲ける能力はないのである。たとひ能力はあつても斯うした種類の女達は家の內ですら決して働かうとはしないのである。

それでも、北京は由來物價の安いところ、閑人の安居するによきところ、事變前まではどうにか食ふだけのことはできた、と老人はいふ。彼の借家は久しく家賃三圓であつた。彼等の常食とする麥粉はもと一袋二圓前後であつた。ところが家賃はこの一二年間に二十七圓に騰つた。麥粉は今日十六圓に騰つて居る。憐れむべき羅先生は、無能な家族を養ふ爲に嫌でも老軀に鞭うたざるを得なくなつたのである。

今次の事變は舊き支那及支那人に驚天動地の變革を齎らした。特に北京に就いていへば滿軍入城以來の恐慌であつたらう。事變は日支親善の一部を實現させた、不良日本人と不良支那人とが緊密に提携して居る。時とはさる要人の皮肉である。時流に乘ることを知らぬ者、乘ることを潔しとしない者、其他多數無辜の支那人は困惑し切つて居る。羅老人も其無辜の一人であるが、多少の學問と人のよさとを以て同情と好感と活資とを贏ち得てゐるのは、まだ幸福な方だと謂へるであらう。

あり難いと彼自身は云つてゐる。私の知人家人は何人かのお弟子を世話して大に感謝されて居る。彼は尠くとも見た限りでは自分の運命を悲しんでゐる風はない、また今の世を慨かうともしない。寧ろ素直に諦めてゐるやうに見える。その癖、國民革命以來、南人の北方支配以來、北京が害はれ北方固有の風尙が衰へて行くことに就いては妙に慨歎もするのである。私はこれをそのまゝに受取つていゝかどうかを知らないが、この老先生の如きたゞの支那人ではなく謂はゞ北京人ともいふべき部類に屬するのではないかと思ふ。

北支の自動車交通

久田德雄

北支の道路は省城や都市を中心に建設されたものが多い。之は累年の内亂や天災に害ひされた爲、運輸交通を目的としたり、産業開發に資すると謂ふよりも寧ろ内亂平定の爲の軍事輸送や治安の爲の政治上の意味からなされたものが多いからである。そのため之等の道路は治安の平常化に從て軍事輸送は減じ、又經濟道路でないため自然荒廢に委ねられる狀態であつた。民國十五年から全國に亙つて行はれた「國家統一の要諦は交通を發達せしめ、治安の維持、産業の開發を圖るにあり」とする維新運動や民國二十二年共産軍討伐を目的として積極化された南支の道路建設に刺戟されて北支各省政府も系統的に利用價値のある道路の建設に進みつゝあつた。特に山東省は地形の便と爲政者の積極的な政策に依て他省よりも遥に發達し、北支自動車路線の大半を占める迄に至つたのである。

一九三五年（民國二十四年）迄に建設された自動車の運行可能な道路は二三、五九八キロ、その中實際に自動車の運行されてゐた道路は一三、七八一キロで之を各省別に示せば次の通りである。

	可能道路	運行道路
河北省	四、九三二キロ	二、八三三キロ
察哈爾省	五、〇六九	一、一四二
綏遠省	三、五四〇	一、七四八
山東省	七、四一八	六、八二九
山西省	二、六四〇	一、二二九
計	二三、五九八	一三、七八一

然しこの道路延長に比して車輛數は僅に五、二一二輛に過ぎず、その三分の二は北京、天津、青島の都市で占め、各省の約半數は山東省に依て占められてゐたのである。

昭和十一年米國では四人に一臺、日本内地では五四八人、世界の平均では五三人に一臺の割合に發達したのであるが、北支では一萬五千人に一臺の割合で如何にその發達が遲れてゐたかが窺はれる。この遲れた原因は曩に述べたやうに道路建設が交通運營を目的としたものでなく、或は後年その目的に向ひつゝあつたとしても未だ過渡期の域を出なかつたこと、山嶽や河川が多く、又春季の解氷や夏季の降雨等に依て著しく運行が阻げられたこと、更に貨物の輸送は殆ど荷馬車や舟運に壓迫されてゐたこと等で主に旅客輸送にのみ限られてゐたからである。

然るに事變以來これら北支の路線に運轉されてゐた自動車は支那軍に徵發或ひは燒却せられ、道路も破壞されたもの多く、支那側の自動車運行は全く不可能に陷つたのである。

これより先き日本側では昭和十年六月、滿鐵によつて山海關、擡頭營七〇キロの運營を開始した。この路線開拓當時は抗日を標榜する國民政府を初め宋哲元を主班とする冀察政府があり、又蘇聯は外蒙から内蒙を横斷して河北に出る赤化ルートの建設に力を注ぎつつある有樣で、唯梅津何應欽協定で非戰地區として定められた冀東政府が僅に、親日的な態度を示すに過ぎなかつた。しかるにこの冀東地區と滿洲とを結ぶ交通路は北寧鐵路(現在の京山線)一本だと云ふ貧弱さなので、こゝに自動車路線の開設が必要となつたのである。その後逐次冀東地區と蒙疆の一部に經營路線を伸長せしめてゐたが、その當時は道路の不備、橋梁の流失、その他の故障、或は民間業者の反對、兵匪の襲擊等に遭ひ、この國策の尖兵は苦心慘澹を極めた。事變前迄の營業路線は左記の通りである。

區間	キロ
山海關――擡頭營	七〇キロ
〃――南海	五キロ
唐山――豐潤	二八キロ
〃――胥各莊	一〇キロ
〃――遵化	一一八キロ
北京――古北口	一三二キロ
張家口――多倫	三二九キロ
計	六九二キロ

事變後は、軍の進攻につれて運行範圍を擴大し、滿鐵の資本と人とによつて華北汽車公司と蒙疆汽車公司の兩會社が創設され、鋭意路線の復舊と伸長に努力してゐたが、昭和十四年四月華北交通會社の創立によつて華北汽車公司の事業は之に包含された。蒙疆政府はその特殊事情により、別に、蒙疆汽車公司を創設し、約四千キロを經營してゐる。華北交通會社創立までの路線開設キロ程を示すと、左記の通りである。

一、自昭和十二年七月七日
　至昭和十三年三月三十一日

河北省	一、一六三キロ
山西省	一六五キロ
蒙疆地區	五七五キロ
計	一、九〇三キロ

二、自昭和十三年四月一日
　至昭和十四年三月三十一日

河北省	六九〇キロ
山西省	一八〇キロ
山東省	一、五二二キロ
蒙疆地區	一、二六二キロ
計	三、六五四キロ

以上の如く華北交通創立までに北支に於て三、七一〇キロ、蒙疆に於ては一、八三七キロ、計五、五四七キロの開設をなしたのである。

以來北支の自動車路線の伸長振りは目覺しく昭和十五年十月には一萬二千キロ、その主要路線は一四〇餘線に達し、殆ど戰前に近迫せる路線の開設をなしたのである。

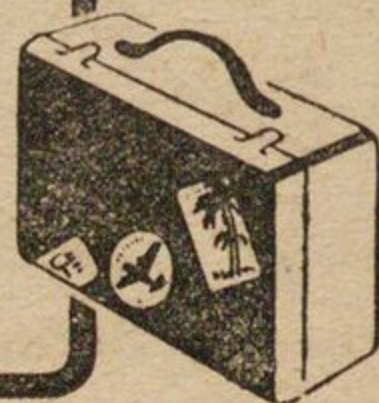
斯くの如き急速なる復興と建設は決して平凡容易に出來たものではなく、偉き從事員の不屈の努力と幾多の犧牲を忘れることが出來ない。破壊された鐵道に代つて都市と都市、或は部落の軍事輸送に當つたのである。その間には車輪を沒する泥濘の中を進み、或は破壊された道路を修理し、又は匪襲を防ぎながらハンドルを握り兵士と共に敵の眞只中に車を進めた。エンヂンの音高らかに勇躍營業所を出發した車輛が、數時にして頑敵に包圍され掠奪の憂目を見るか或は燒かれ、從事員は車と運命を共にし、匪彈に斃れ又は拉致される等の悲慘な事故は一、二に止まらなかつたのである。昭和十五年十月迄の殉職社員は已に四十餘名に上つてゐる。

北支の自動車事業は今や全く華北交通の經營下にあると云つても過言ではない。天津、北京、太原、濟南、開封の各鐵路局に自動車處があり、管下の營業所、營業支所を激勵鞭撻し、路線の開設と業務の促進、車輛の整備に忙殺されてゐるのである。人的要素に不足せる今日、特に技術系統從事員拂底の中に在て、而も資材の供給乏しき狀況に置かれながら事業の圓滿なる遂行その向上發展を期することは難事中の至難事と云ふべきである。

他方現場機關に於ては未だ匪賊の横行甚しく、常に匪情に神經を尖らし、惡路に惱み、言語に不自由を感じ、その勞苦は並大抵ではない。然し克くこの苦難に耐へ尙何れも軍の治安工作に對しては全力を擧げて協力し、深き感謝の念を以て迎へられてゐる有樣である。又華北交通は滿洲における滿鐵と同じく鐵道、水運と共に自動車をも綜合的に一貫經營して、各々の機能を有機的に發揮せしめようとするものである。現在その輸送は人よりも物を主とし旅客四、貨物六の割合であつて、華北交通の自動車が如何に地方物資の集散に寄與しつゝあるかを窺ふことが出來る。

昭和十四年度は、未曾有の水害のため一時全路線、運行不能に陷つたが、なほ旅客約六百七十萬人、貨物約二十五萬噸を運送し、前年度に三倍する成績を收めた。自動車の開通によつて事變以來萎縮してゐた奧地物資の出廻りを促進し、聯銀券の流通範圍を擴大せしめてゐること、さらに、之に伴ふ民心の安定、防共治安上の效果など、直接間接の好影響は、測り難いものがある。

本年十月末現在の營業路線は一萬二千キロとなつてゐるが、これを十五年度一杯に一萬六千キロ、十六年度に一萬八千キロ、十七年度に二萬キロと延長させて行き十八年度には二萬一千キロに達せしむる筈で、路線開拓の地域は河北、河南、山東の三省はもとより蒙疆地區から山西省を巡つて隴海線に出るもので、完成の曉には鐵道、水運とタイアップし、軍事、經濟開發上に多大の貢獻を齎らすものとして期待されてゐる。

（筆者は華北交通資業局員）

冬賑

紫禁城の黃甍に積つた枯葉が沙塵に埋れ、晩秋の曠野を渡る快い風がいつの間にか肌をさす樣な朔風に變り初めると、暖かつた北京も零下何度と云ふ日が續き、家の中に入り損ねた乞食や阿片癮者の凍死體が多くなる。

臘七臘八　凍死寒鴉
臘八臘九　凍死小狗
臘九臘十　凍死小人

と、子供達が唱ひ出すのもこの頃である。昨年十一月から本年三月までの五ケ月間に北京市の凍死者の數は七二〇名に上つてゐる。

そこで北京市社會局が主唱者となり基督敎、佛敎聯合會その他慈善團體と圖つて、嚴寒に食物を奪はれ、寢所を失つた人々の救濟のため粥廠、暖廠、施米房、放棉衣、施棺を設けたのである。

現在北京市には二十餘の粥廠があつて、毎日四、五萬人の老幼男女が、この粥廠めがけて押寄せて來る。粥廠の內部には巨大な竈があつて、大きな鍋が載せてあり。眞白な米が煮えたぎつてゐて、香ばしい蒸氣が雲の樣に湧き上つてくる。その匂ひに鼻をクンクンさせながら瘡搔や鼻たれ小僧達が跳廻つたり、垢だらけの女房達がバケツやブリキの空罐を持つて、竈の周圍にぞろぞろ集つて來るのである。

粥廠は夜になると暖廠になる。大きなアンペラ掛の小屋にアンペラと藁をしく。こゝは大事な洋車引や苦力達の寢所で、四百人から六百人程ぞろぞろとやつて來る。蒲團を持つてゐるものはこの內でも極く僅かで、大部は藁の中にもぐりこんで寢て仕舞ふ。

施米房といふのは食糧の無料配給所で、昨年市公署によつて配給された玉蜀黍の粉だけでも二五〇噸を超えてゐる。放棉衣とは支那服の無料拂下げで昨年の十一月から今年の三月までに一萬二百餘套を拂下げた。施棺といふのは死棺の配給で、これも毎年一千から二千の數を示してゐる。

愛路列車

華北一圓の鐵道沿線には日を逐うて、華北交通會社による鐵道愛護村が組織されてゆくこの愛護村は已に三千ケ村、三千萬の人口を擁してゐるが、之等の愛護村民に、鐵道の齎す直接の恩惠を與へて、より一層愛路觀念を鼓吹しようといふのが愛路列車なのである。この列車は鹽、砂糖、メリケン粉など安くて良い商品を滿載してゐるだけでなく無料で施藥施療をしてやり、演藝、映畫、レコードなどで樂しく一日を過させ趣向を凝してある。だから列車の編成は十六、七輛にもなり乘務員も七十名に餘る大がかりなものである。先づ列車が驛につくと、この日、二里三里遠くは十餘里の田舍から驅せ集つてきた數千の村民に對して列車代表から懇切な愛路の話がなされる。又產業車、家畜車では先進地愛護村の狀況及鐵道の產業開發に對する諸種の研究事項を發表し、優良種子の配付及家畜改良等に對する將來の計畫が話される。それがすむと、驛のホームや近くの空地では手品、曲藝、手踊りなどいろとりどりの餘興が始まり、列軍內では施療班や廉賣店が蓋をあける。食堂車では愛護村代表などの招待會に賑ひ、ホームにも廉賣店を開いて押すな押すなの盛況を見せる。日常物資に乏しい奧地のことであり、しかも絕對間違ひない品物が天津や北京の相場なのだから、彼等は財布の底をはたいて奪ひ合ひで買つて行くのだ。華北に鐵道が出現して以來かやうな眞に民衆のための慰安列車が運轉されるのは華北交通の愛路列車が始めてである。

影戲

民衆生活の上に皮膚のやうに蔽はれて來た傳統、古い藝術が、時勢の波に抗じ難く一沫の泡如くはかなく消えて行くほど、心ある

るものにとつて、寂しいものはなからう。十年前の北京なら、普通の家の慶事に招かれても、よく影戲を呼んで賓客を娛しましめて與れた。院子の隅に張られた白布に電燈の光も白く、それに百戲を映出して音樂と倩歌に團欒する原始的な光景はもう遠い過去の追憶となつてしまつたのだ。

影戲は漢の武帝が布張りに李夫人の影をうつしたことに始まると傳へられてゐるが、一說には印度からビルマ、ジャバ、シャムを經て北宋に傳はり南宋に盛行したと云はれる。

明末灤縣の人、曹振中が當時志を得ず自ら遼陽で布張りの講を設け、世風の頽廢をなげき、古來の道德故事や因果故事を韻文で寫し出し民衆に訴へんとしたが、なほそれでも多數の民衆を引きつけるに足らず、影戲を講談に配し、また木魚を敲いて歌つた。その後いろ〳〵な樂器を取入れたので當時非常な勢で流行した。これが淸代に北京に入り現在の體裁を整へたのである。影戲の影片は驢皮が用ひられる。皮の兩面を剝ぎとり、擦つて平滑にしてから臉譜によつて繪がき、桐油を塗つてある。舞臺はすべて組立式の簡易なものでスンリーンは疊一疊程の白木綿又は紙張りでその裏に演出と伴奏の人員五名から十名位迄、渾然一體となつて手足のやうに動くのである。スクリーンに擦り付けて操られる人形は見たところ煤ぼけてみすぼらしいけれども一度光を通されると生彩躍如として迫つて來る。日本の文樂を見て驚く私等はここに亦生きもののやうな一枚一枚の人形に感激するのである。

清末北京にあつた影戲班では揚金廣の主宰した魁陞和、白玉團の樂春園班李脫塵の慶民昇班、などがあつて一時盛況を極めたのであるが、近年來とみに振はず同業者は四散し、又は死歿してしまつた。事變直後天橋に金麟班の一班があつて名殘りを止めてゐたが、これも今では算盤に合はず已むなく休場してゐる。

水閥と糞閥

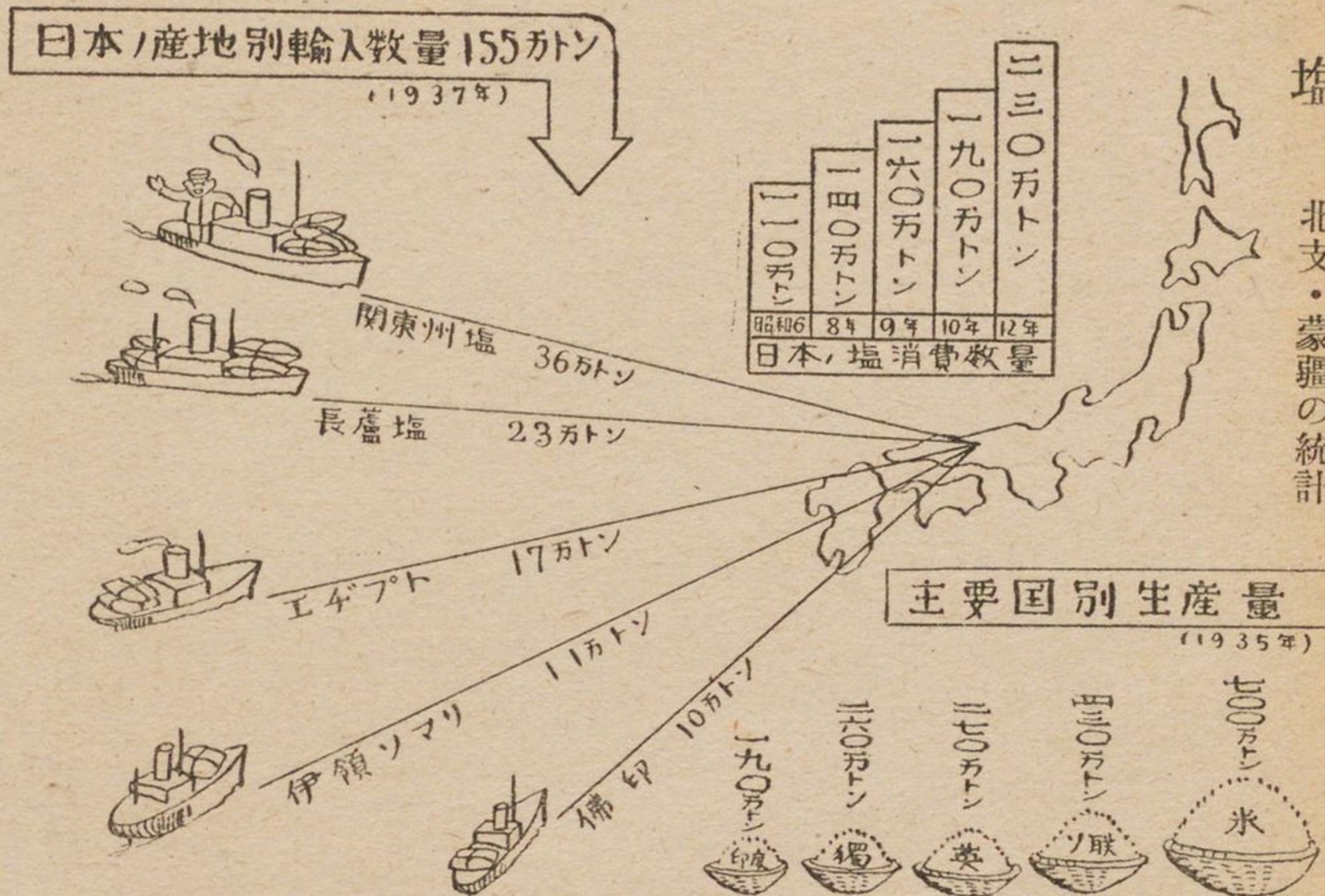
北京では、昔軍閥と同じやうに勢力のあるものに水閥、糞閥があつた。水閥とは井水業者の集りを云ひ、糞閥とはいふまでもなく糞夫のこと、これが二つとも山東出身者の獨占事業である。民國の初年、水道の施設が出來てからは水夫の商業範圍は、大分縮少されたやうなものの、これを使用してゐるのは支那の金持か日本人または外人達で、水道料金と施設費が高いので、市民の大部分は未だにこの水夫から一桶いくらの水を買つて暮らしてゐる。況んや糞夫の商賣は人口の增加と共にいよいよ繁昌しその勢力は少しも衰へてゐない。水閥も、糞閥も、總元締の下に統制されてゐるので團結力も強く、うつかり彼等と爭ひでも起さうものなら、臺所は水饑饉だし、糞取りは來ず、糞攻めにされる覺悟が必要である。

水閥にも糞閥にも、水道、糞道といふ一種の繩張があつて屢々勢力爭ひが行はれる。徒黨を組み、棒切や刀を持ち出し、血を見ねば納らないほどの激烈な爭ひをやる。このために一人や二人の死人を出すことも珍らしくない。これも舊軍閥や國民政府の市當局がぐうたらであり、彼等から多額の賄賂を收めてゐたので、こんな爭ひさへ取締ることが出來なかつたのである。

國民政府時代、市當局は申譯的に水閥の改革を目的として井業公會なるものを設立したが、この公會に加入したものは北京全市の水夫八千餘名の內、約二百名であつて、約九割六分は會に加入しなかつたと云はれる。

糞の汲取人夫は現在のところ約六千人その親分四百人と稱されてゐる。糞閥は乾隆以來三百年來の傳統があつて親から子へ、親分から乾分へと代々引繼がれてゐる。

塩

北支・蒙疆の統計

わが國の鹽の需要は、化學工業の躍進につれて近年急テンポに增加し、工業鹽の不足は益々深刻化しつゝある。

昭和五年において既に百萬トンを突破した工業鹽は、昭和十二年においては實に二百三十萬トンといふ驚異的數字を示してゐる。しかるに、わが國の年産額は僅かに六十萬トン前後に過ぎずしかもその殆ど全部は食料鹽で工業鹽には適せず、その絶對部分を海外の供給に俟たねばならぬ現狀にある。ところで、この工業鹽を外鹽に依存せず容易に且つ速かに安價に供給する地區を求めると先づ、臺灣、關東州、滿洲及び北支の順となるが、臺灣の鹽は土地や氣候の關係から增産の點に難點があり、關東州や滿洲では其の地に化學工業が發達しつゝあるので、この點から日本の要求を滿たして與れるのは何といつても支那だと云ふことになる。

支那は昔から鹽産資源に富んでゐるが特に北支の鹽、長蘆鹽、山東鹽がその名を謳はれてゐる。

長蘆鹽は年産六十萬トン、これを積み重ねると、日本で一番大きい建築物と云はれる東京の丸ビルを三つ持つて來ても入らない。長蘆といふ名はこの地方が鹽の産地のためで、昔は二十場近くも黄河に面し、見渡す限り鹽田が續いてゐたのであるが、國民政府によつて制限され現在では蘆臺と豐財の二場だけになつてゐる。その生産上の自然的條件は、海岸平坦地の廣大なことまた大氣は常に乾燥し氣溫も高く雨量は少く、降雨も製鹽休止間の七、八月の雨期に多くて製鹽最盛期には少いといふやうに、天日製鹽にとつては凡ゆる理想的條件に惠まれ、世界一の最適地と稱されてゐる。現在、華北鹽業會社の手によつて經營されてゐるが、その增産計畫によると、昭和十六年迄に百七十萬トン産鹽の施設を完了する豫定である。

山東鹽は年産四十萬トン、長蘆鹽に次ぐ大鹽田で齊の謀臣管仲によつて開拓されたのがその濫觴で、事變後資本金一千萬圓の山東鹽業會社が創立され開發に當つてゐる。

昭和十五年十二月十五日印刷納本
昭和十六年一月一日發行
北京・華北交通株式會社 資業局 行

一月號
(毎月一回一日發行)

編輯者 東京市麹町區三番町一 加藤新吉
發行者 小石川區久堅町一〇八 長谷川巳之吉
印刷者 共同印刷株式會社 大橋松雄
發行所 東京市麹町區三番町一 第一書房
振替東京 六四二二三番
電話九段(33) 一四一五番 三三四四番

一冊定價(特)三十錢(郵送料一錢五厘)
一ヶ年分 金三圓六十錢

廣告取扱
大阪市西區京町堀上通一丁目二五
一手取扱所 一新社
電話土佐堀九三九

NISSEN
痒い皮膚病に
ムナバールは化學的に合成したる有機硫黄化合體ヂメチル・ヂフエニーレン・ヂスルフイドにして皮内に滲透して强力なる殺虫作用を發揮し、同時に優秀なる止痒消炎作用を呈する理想的皮膚病藥なり。
【特徵】
一、用法簡便且つ無害・無刺戟にして何等副作用を伴はず。
一、嫌惡すべき臭氣なく且つ衣服類を汚損することなし。
一、品質純良にして約二六%の硫黄を含有す。
適應症
疥癬・頑癬・濕疹一切・白癬・水蟲・面皰・汗疱・陰嚢頑癬・皮膚化膿疹・傳染性膿疱疹・皮膚瘙痒症其他寄生性及瘙痒性及皮膚諸疾患。
包裝
一〇瓦(瓶入)
二五瓦(〃)
一〇〇瓦(〃)
五〇〇瓦(罐入)
一〇〇〇瓦(〃)
日染
ムナバール
Munaval
ムナバール
製造元 日本染料製造株式會社
大阪市此花區春日出町
發賣元 株式會社稲畑商店
大阪市南區順慶町二丁目

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可　昭和十五年十二月十五日印刷納本　昭和十六年一月一日發行（毎月一回一日發行）第二十號

北支 ㊕ 定價三十錢